

熊本県立大学
Prefectural University of Kumamoto
大学概要 2022



理事長・学長紹介

公立大学法人 熊本県立大学 理事長

しらいし たかし
白石 隆



昭和25年生まれ、文化功労者、哲学博士。専門は地域研究。

東京大学助教授、コーネル大学教授(平成8年)、京都大学東南アジア研究センター教授(平成8年～平成17年)、政策研究大学院大学副学長(平成17年～平成23年)、学長(平成23年～平成29年)を経て、平成30年4月に本法人の理事長に就任。

その他、内閣府総合科学技術会議議員(平成21年～平成23年)、日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア経済研究所所長(平成19年～平成30年)などを歴任。

熊本県立大学 学長

つつみ ひろあき
堤 裕昭



昭和31年生まれ、博士(理学)。専門は海洋生態学 沿岸環境科学。

昭和62年熊本女子大学生活科学部助教授として着任。平成11年熊本県立大学環境共生学部教授。その後、環境共生学研究科長、環境共生学部長、地域連携・研究推進センター長、副学長を経て、令和4年4月に学長に就任。

その他、日本ベントス学会会長、不知火海・球磨川流域圏学会会長などを歴任。

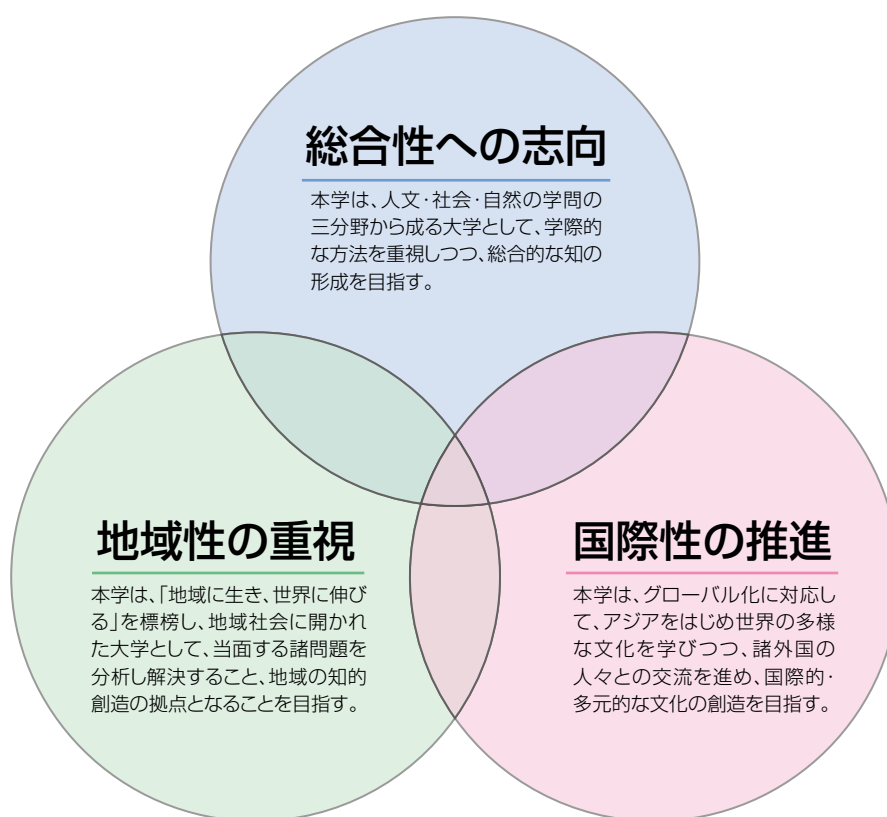
目 次

理事長・学長紹介	1
1 理念・目的	2
2 沿 革	3
3 組 織	4
4 特色ある取組	10
5 学生数、教職員数	14
6 入試状況・入学者の状況	15
7 卒業・修了生数	16
8 進路状況	16
9 研究活動	18
10 地域貢献活動	21
11 国際交流	25
12 財務状況	26
13 大学施設	29
大学暦・交通アクセス	裏表紙

理念・目的

地域に生き、世界に伸びる

理 念



大学の目的(熊本県立大学学則第1条)

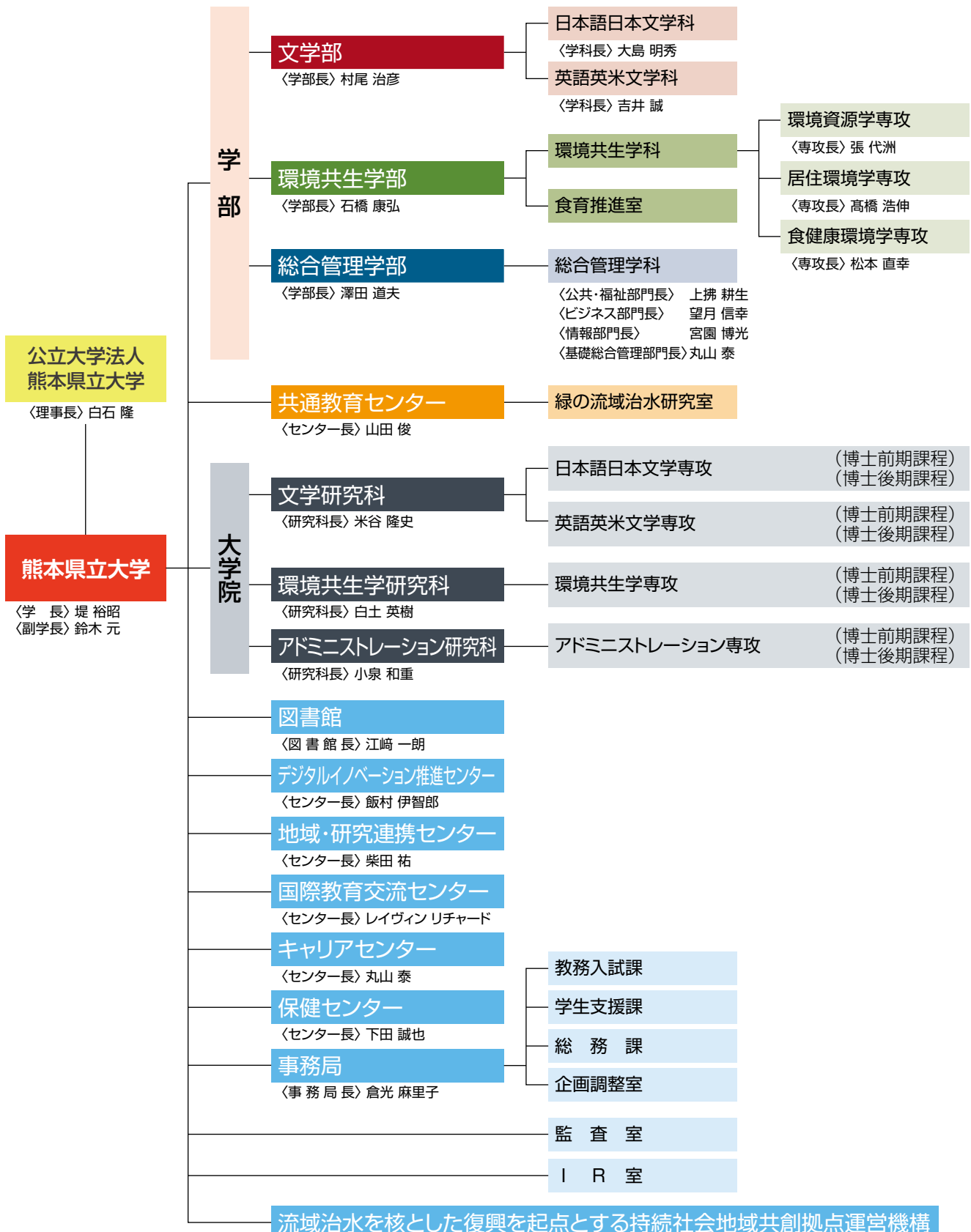
熊本県立大学は、豊かな教養と高度な専門性を有し、総合的な知識と実践力、創造力を備えた有為な人材を育成するとともに、研究成果を社会に還元し、教育研究資源を地域に提供することを通じて、熊本県ひいては国際社会の発展に寄与することを目的とする。

1947(昭和22)年4月……	● 専門学校令により熊本県立女子専門学校創立(熊本城内)
1949(昭和24)年4月……	● 熊本女子大学開学 ▶ 学芸学部/文学科、生活学科
1950(昭和25)年6月……	● 熊本市大江町渡鹿に校舎移転(現:県立劇場敷地)
1953(昭和28)年4月……	● 学部学科名称変更 ▶ 文家政学部/文学科(国文学専攻、英文学専攻)、家政学科
1960(昭和35)年4月……	● 学科分割改組 ▶ 文学科→英文学科、国文学科
1963(昭和38)年4月……	● 学科分割改組 ▶ 家政学科→家政学科、食物学科
1980(昭和55)年4月……	● 熊本市健軍町水洗(現:月出)に新キャンパス建設 ● 学部を文学部、生活科学部の2学部制とし、合わせて学科改組 ▶ 文学部/国文学科、英文学科 ▶ 生活科学部/食物栄養学科、生活環境学科、生活経営学科
1991(平成 3)年4月……	● 外国語教育センター設置
1993(平成 5)年4月……	● 大学院設置 ▶ 文学研究科/日本語日本文学専攻(修士課程)、英語英米文学専攻(修士課程)
1994(平成 6)年4月……	● 大学名称を「熊本県立大学」に変更し、全学的に男女共学に移行 ● 学部増設 ▶ 総合管理学部/総合管理学科 ● 文学部学科名称変更 ▶ 国文学科→日本語日本文学科 英文学科→英語英米文学科
1997(平成 9)年……	● 大学歌「宙(そら)へ」制定(開学50周年記念事業)
1998(平成10)年4月……	● 大学院研究科増設 ▶ アドミニストレーション研究科/アドミニストレーション専攻(修士課程)
1999(平成11)年4月……	● 生活科学部を環境共生学部へ改組 ▶ 環境共生学部/環境共生学科/生態・環境資源学専攻、居住環境学専攻、食・健康環境学専攻
2000(平成12)年4月……	● 大学院博士課程設置 ▶ アドミニストレーション研究科/アドミニストレーション専攻(博士課程)
2003(平成15)年4月……	● 大学院研究科増設 ▶ 環境共生学研究科/環境共生学専攻(修士課程)
2005(平成17)年4月……	● 大学院博士課程増設 ▶ 環境共生学研究科/環境共生学専攻(博士課程)
2006(平成18)年4月……	● 公立大学法人熊本県立大学へ移行 ● 附属図書館及び外国語教育センター等を改組し、学術情報メディアセンター設置 (図書館、語学教育部門、情報教育部門) ● 地域連携センター設置 ● 包括協定制度整備
2007(平成19)年……	● 協力講座開講
2008(平成20)年4月……	● 大学院博士課程増設 ▶ 文学研究科/日本語日本文学専攻(博士課程) ● 環境共生学部学科改組 ▶ 環境共生学科→環境資源学科、居住環境学科、食健康科学科
2009(平成21)年4月……	● 学生支援組織改組 ▶ キャリアセンター設置、保健センター設置 ● 熊本県立大学奨学金創設
9月……	● 熊本県立大学未来基金創設
2010(平成22)年4月……	● 大学院博士課程増設 ▶ 文学研究科/英語英米文学専攻(博士課程)
2011(平成23)年10月……	● 熊本県立大学CPD(継続的専門職能開発)センター開設
2013(平成25)年4月……	● 地域連携センターを地域連携・研究推進センターに改組
2014(平成26)年4月……	● 全学教育推進センター設置
2019(平成31)年4月……	● 環境共生学部学科改組 ▶ 環境共生学科/環境資源学専攻、居住環境学専攻、食健康環境学専攻 ● 環境共生学部に食育推進室を設置 ● 学術情報メディアセンターに研究支援部門と情報基盤管理室を設置 ● 地域連携・研究推進センターを地域連携政策センターに改組 ● 監査室設置
2020(令和 2)年4月……	● 国際教育交流センターを設置し、語学教育部門を学術情報メディアセンターから移管 ● 全学教育推進センターから教学IR室を移管し、IR室を設置
2021(令和 3)年4月……	● 全学教育推進センターを共通教育センターに改組 ● 緑の流域治水研究室を設置
2022(令和 4)年4月……	● 学術情報メディアセンターと地域連携政策センターを改組し、地域・研究連携センターを設置 ● デジタルイノベーション推進センターを設置

(1) 大学組織図

人文・社会・自然の学問の3分野から成る3学部と、それらを基礎とした大学院3研究科を博士後期課程まで設置しています。

令和4年(2022年)4月1日現在



(2) 学部学科の概要

文学部



人間は言葉でものを考え、言葉を通して思想・文学を表現し文化を作ります。言語・文学を、そして文化を学ぶことは、人間の本質と生き方を学ぶことにほかなりません。

日本語日本文学科

日本語学・日本文学・日本語教育の3つの領域について教育研究を行います。日本語学では、日本語の音韻、文法、語彙を研究し、日本文学では、各時代の文学作品を研究対象とします。日本語教育では、外国人に日本語を教えるための方法論を研究します。

学生は広く日本語学・日本文学を学んだ上でテーマを絞っていきますが、上記の3領域を基礎として、地域の言語・文化を研究したり、広く東西の言語・文化と関連づけて研究することもできます。

さらに、本学科では、日本語教員養成課程（主専攻・副専攻）を開設しています。これは諸外国の人々に日本語を教える日本語教師を育成する課程です。

取得可能な資格：中学校・高等学校教諭一種免許状（国語）

英語英米文学科

英語学、英文学、米文学、英語教育について教育研究を行います。また、それらの専門教育と併行し、4年間を通して本格的な英語運用能力、すなわち、英語を読む、聞く、話す、書くなどの能力の育成に重点を置き、高度な英語コミュニケーション能力を身につけることを目標にしています。

3年生になると各専門分野に分かれ、少人数のセミナーで一人ひとりが研究テーマを掘り下げます。副専攻として、日本語教員養成課程（副専攻）を開設しています。

取得可能な資格：中学校・高等学校教諭一種免許状（英語）

環境共生学部



豊かな自然を保ちながら継続的に利用し、その地域に住む人々の快適な生活を確保する方策、すなわち自然環境と人間活動の共生の方策を追求し、「環境共生型社会の創造」を目指します。

環境共生学科 環境資源学専攻

持続可能な社会を創るには、人間活動が水、大気、海洋、森林などの環境資源に与える負荷を少なくし、生態系全体を保全していくことが必要です。この視点に立ち、基礎的な自然科学の知識と理解力を養成します。また、人間活動が環境資源に及ぼす影響を調査、解析評価する能力を養成します。さらに、フィールドワークなどによる現場実習によって、より実践的な環境科学のエキスパートを育成します。

取得可能な資格：中学校・高等学校教諭一種免許状（理科、家庭）、高等学校教諭一種免許状（農業）

環境計量士受験対応、環境計量士受験対応、公害防止管理者受験対応

環境共生学科 居住環境学専攻

環境共生型社会の視点に基づき、住宅・建築・都市・農山村にいたる居住空間の改善と創造のための教育研究を行っています。さらに、地域文化、地域の多様な資源の有効活用などを重視しながら、居住環境を創造・改善するための計画・デザインの知識と実践的能力を身につけます。

取得可能な資格：一級建築士受験資格、二級建築士受験資格、中学校・高等学校教諭一種免許状（理科、家庭）
高等学校教諭一種免許状（農業）

環境共生学科 食健康環境学専攻

「環境共生」の立場から食を通じた健康の維持・増進や疾病治療に関する教育研究を行います。地域社会の健康増進を目指し、健康増進のための食生活、食資源の開発、食品の加工と安心安全、ライフステージや病態に応じた栄養管理、食育、運動と栄養などの知識と実践力を学びます。

取得可能な資格：栄養士免許、管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生監視員・管理者資格

中学校・高等学校教諭一種免許状（理科、家庭）、高等学校教諭一種免許状（農業）

栄養教諭一種免許状

総合管理学部



行政や企業などの組織を含む地域社会が抱える課題の発見とその解決策を提案し実現することのできる人材育成を目指します。

総合管理学科

複雑な現代社会で発生する様々な課題の解決には、一つの学問分野だけでは不十分で、学際的・総合的なアプローチが必要です。総合管理（アドミニストレーション）の対象は、現代社会に生じる諸課題の発見、解決のための政策立案、実行、評価に関する理論と実務です。卒業後は、公共・福祉、情報、ビジネス等の分野での活躍が期待されます。

1年次から専門科目（基礎総合管理、基幹）を順次履修し、3年次以降の展開科目では「公共・福祉」「ビジネス」「情報」の3分野から、自分の興味や進路にあわせて広く学習できるように配慮しています。また、1年次から卒業まで一貫して、PBL（Project-Based Learning の略で、「課題解決型学習」と訳されている）など少人数ゼミでのアクティブラーニングを通して、より実践的な思考とスキルを養っています。

取得可能な資格：中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（公民、商業、情報）

(3) 大学院の概要

■ 文学研究科(博士前期課程)(博士後期課程)



日本語日本文学、英語英米文学について教授・研究し、地域ならびに国際社会の進展に寄与することを目的として、平成5(1993)年4月に日本語日本文学専攻と英語英米文学専攻の2専攻から成る文学研究科修士課程を設置しました。これを改組して、平成20(2008)年度より日本語日本文学専攻、平成22(2010)年度より英語英米文学専攻に博士前期課程・博士後期課程を設置しました。文学研究科では、それぞれの専攻分野に関する優れた研究能力と専門的職業に必要とされる高度な適応能力の開発を目標としています。深い専門性の追求を通して人間としての叡知を磨き、真摯を見分ける洞察力を培うことで、地域および国際社会の中核となる人材の育成を目指しています。探究心豊かな研究者の養成、高度な専門的知識と創造的な教授能力を備えた中学校・高等学校教員の養成の場として、また、広くは社会人のための再教育の場として、有能な人材を世に送り出すとともに、海外からの優秀な留学生を積極的に受け入れています。また、国内外における日本語学習の需要に応じて、専門家を育成しています。

社会人の受入を効果的に進めるため、昼夜開講制も実施しています。中学校、高校教諭一種免許状(国語、英語)を有している方は専修免許状を取得することができます。

■ 環境共生学研究科(博士前期課程)(博士後期課程)



環境共生学部理念を継承し、さらに総合的、かつ高度の展開をはかるために平成15(2003)年度に修士課程を、平成17(2005)年度には博士後期課程を設置するとともに、修士課程を博士前期課程としました。博士前期課程では学部の3専攻における教育を基礎として、さらに発展させるために2領域4分野を配置しています。これらの4つの研究分野が相互関係を重視しながら「環境共生学」を広く学び、深く研究することを目指しており、現在まで多数の優れた人材を社会に送り出しています。博士後期課程においては、4分野を一つに集約するよう教育の再編成を行い、それぞれの立場から深く研究を行い、「環境共生学」を確立しようとしています。平成20(2008)年3月に、初めての博士(環境共生学)が誕生して以来、多数の博士号取得者を輩出しています。

環境共生学研究科の特徴は(1)学部教育を基礎として、総合・発展させた教育研究、(2)フィールドワークを重視した教育研究、(3)実践能力を育成するカリキュラム、(4)社会人が学びやすい昼夜開講制度、(5)充実した研究設備、などが挙げられます。

中学校、高等学校教諭一種免許状(理科、家庭)を有している方は、専修免許状を取得することもできます。

■ アドミネストレーション研究科(博士前期課程)(博士後期課程)



わが国で初めての、アドミネストレーションを研究対象とする大学院で、博士前期課程と博士後期課程を設置しています。

博士前期課程では、公共・経営、ビジネス、情報、看護の4分野を配置し、多方面からアドミネストレーションの基本概念の修得を目指し、地域社会の要請に応え得る問題発見・解決型の実践教育研究を実施しています。

博士後期課程では、社会のさまざまな分野で生じる諸課題を高度な知識と判断力によって多角的・総合的に解決するための教育研究を実施するとともに、アドミネストレーションの理論をより一層深化発展させることによって、課題解決の適切さと確実度を高める教育研究を実施しています。

また、社会人に対する高度なリカレント教育の要請に応えるために、昼夜開講制を実施しています。

中学校教諭一種免許状(社会)及び高等学校教諭一種免許状(公民)を有している方は、専修免許状を取得することもできます。

(4) 各センター等の紹介

共通教育センター

共通教育センターは、各学部・研究科、学術情報メディアセンター、地域連携政策センター、国際教育交流センター及びキャリアセンター等との連携のもと、共通教育の改善及び充実を図ることを目的としています。

■ 共通教育センターの主な事業

- 共通教育カリキュラムの編成・管理運営
- 共通教育の改善・充実に関する事項の企画・実施
- 教職課程の企画・管理



地域・研究連携センター

地域・研究連携センターは、本学の教育研究資源を地域に繋ぐコーディネート機能や、授業公開講座など大学ならではの学びの場を地域に提供する役割を担うとともに、大学の研究力の向上に務め、「地域に生きる」熊本県立大学の地域貢献を推進します。

是非、ご覧ください！



図書館

1階～3階の開架書庫・閲覧スペースには、軽読書コーナーやパソコンコーナーのほか学習のための個別ブースやラーニングcommons、グループ学習室も設けており、4階の開架書庫を含めて学生は自由に利用できます。また、本学ホームページから、当館所蔵図書の検索もできます。

- 蔵書数(R4年3月末現在)
 - 図書 約38万冊 ■ 雑誌紀要数 約6000種
- 購読雑誌数 約220種
- 年間入館者数 約3万4000人(R3年度)
- 年間貸出冊数 約2万2000冊(R3年度)



デジタルイノベーション推進センター

■ デジタルによる教育研究環境の刷新を推進します。

あらゆる情報の分析・活用を通して情報の価値を最大限に高めるとともに、デジタルの力により、革新的で魅力ある教育研究環境を構築します。

■ 高度な情報リテラシーを習得するための教育支援と環境を提供します。

大学生活に欠かせないIT活用を支援するため、サポート窓口を運営しています。パソコン・ネットワーク利用に関する相談受付、パソコン・周辺機器の貸出、在学期間におけるOfficeアプリケーションの無償提供、情報処理実習室(パソコン室)の管理・提供を行っています。



■ 安全・安心な情報インフラ・セキュリティを提供します。

本学情報ネットワーク基盤の整備、管理を行っています。また、次世代ファイアウォール等の最新防御対策、セキュリティインシデントへの備えにより安全・安心なネットワーク環境を提供しています。

国際教育交流センター(英語による略称:CIEE)

国際化を更に推進するため、国際教育、国際交流及び語学教育支援等をワンストップで実施する組織として、令和2年(2020年)4月1日に「国際教育交流センター」を設置し、グローバル人材の育成に取り組んでいます。

■ 国際教育の企画・調整

学 部：もやいすとグローバル育成プログラム等の実施支援
(TOEIC®550点以上の学生を対象に、英語運用能力の向上、グローバルな視野の拡大を目指したプログラムを企画)

大学院：高度グローバル人材育成のための国際協力・貢献活動を終えた者の受入れ支援及び国際教育・貢献活動を組み込んだ大学院教育の実施支援



■ 国際交流(P25参照)

■ 語学教育支援

Global Loungeを開設し、Café Event、対面またはオンラインによる英語チュータリング等を実施。また、全学生を対象にTOEIC® 団体試験を年2回実施。

キャリアセンター

キャリアセンターでは、各学部等との連携のもと、将来ある学生の資格取得・就職活動等の支援を行っています。

■ キャリアサポート

就職相談員やキャンパス・キャリア・エンジェル(CCA)が、キャリア形成や進路選択のために有益な情報の提供や、就職に関する様々な相談に応じています。

また、各学部には1名、キャリアサポートを担当する教員をキャリアコーディネーターとして配置しており、キャリアセンター長の下、各学部間で連携をとりながら支援を行っています。

【就職相談員】

経験豊かな専任の就職相談員が、進路相談から企業情報の収集の仕方、自己PRや志望動機を中心とした履歴書の書き方、受験する企業に焦点を合わせた面接や入退室のマナーに至るまで、親身になって支援を行っています。

【キャンパス・キャリア・エンジェル(CCA)】

卒業後の進路が決定した4年生が、自身の学生生活や就職活動を踏まえて、就職活動や進路選択等に関する相談に応じています(相談対応期間は秋期～2月)。この学生たちを、社会と本学学生を接続するという意味で、「キャンパス・キャリア・エンジェル」と呼んでいます。



保健センター

保健センターは、学生が充実した学生生活を送ることができるよう心身の健康管理を行うとともに、修学上あるいは生活上の様々な悩み事に関する相談業務を行っています。また、学生のみならず、教職員の健康管理も併せて行っています。

■ 定期健康診断

学生の健康保持・増進を図るため、全学生を対象として定期健康診断を行っています。この健康診断は、学校保健法により定められているもので、自身の健康状態を知り、生活習慣の改善を図るための支援を行うものです。

■ 学生相談体制

保健センターは、センター長のもと、保健師2名、臨床心理士3名により、学生の様々な相談に応じています。



IR室

各種アンケートから得られる、諸情報の集約・管理・分析を通して本学教育活動を評価し、またPROGテストによる学生の自己分析を実施し、リテラシーとコンピテンシー能力の向上を図っています。

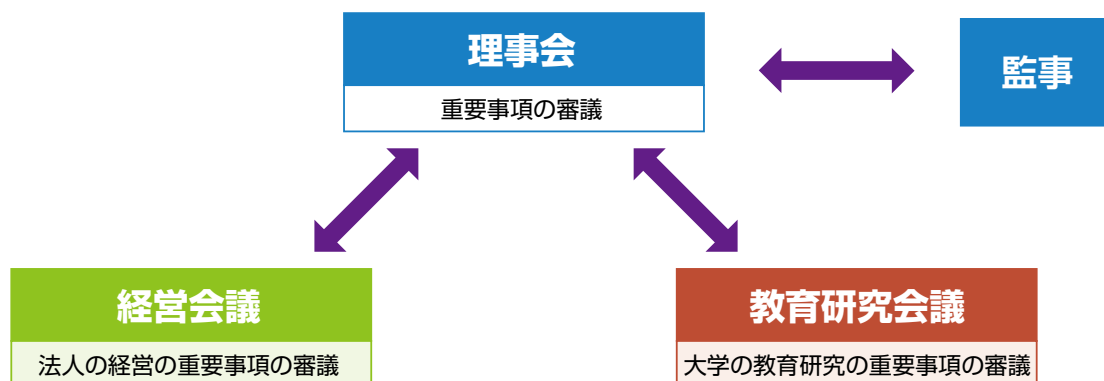
(5) 法人組織

平成18年4月に地方独立行政法人法に基づく「公立大学法人」へ移行。

理事、監事を置くとともに、法人の経営の重要事項、大学の教育研究の重要事項を審議するため、学外委員も含む審議機関（経営会議、教育研究会議）を設置し、法人の運営を行っています。

令和4年(2022年)4月1日現在

役 員			
理 事	理事長	白石 隆	
	副理事長	堤 裕昭	(学長)
	理事	倉光 麻里子	(事務局長)
	理事	鈴木 元	(副学長)
	理事(任命理事、非常勤)	本松 賢	株式会社テレビ熊本取締役会長
監 事	監事(非常勤)	河喜多 保典	公認会計士、税理士
	監事(非常勤)	本田 悟士	弁護士



経営会議委員		
理事長	白石 隆	
副理事長	堤 裕昭	(学長)
理事	倉光 麻里子	(事務局長)
理事(非常勤)	本松 賢	株式会社テレビ熊本取締役会長
委員	櫻井 一郎	櫻井精技株式会社代表取締役
委員	古荘 文子	古荘土地有限公司代表取締役
委員	横田 桂子	熊本県立大学同窓会紫苑会会長
委員	守田 憲史	宇城市長

教育研究会議委員		
学長	堤 裕昭	
副学長	鈴木 元	
事務局長	倉光 麻里子	
文学部長	村尾 治彦	
環境共生学部長	石橋 康弘	
総合管理学部長	澤田 道夫	
共通教育センター長	山田 俊	
地域・研究連携センター長	柴田 祐	
デジタルイノベーション推進センター長	飯村 伊智郎	
国際教育交流センター長	レイヴィン リチャード	
委員	内村 公春	学校法人九州ルーテル学院長
委員	松下 純一郎	株式会社熊本日日新聞社 調査役
委員	牛田 卓也	熊本県公立高等学校長会会長

4

特色ある取組

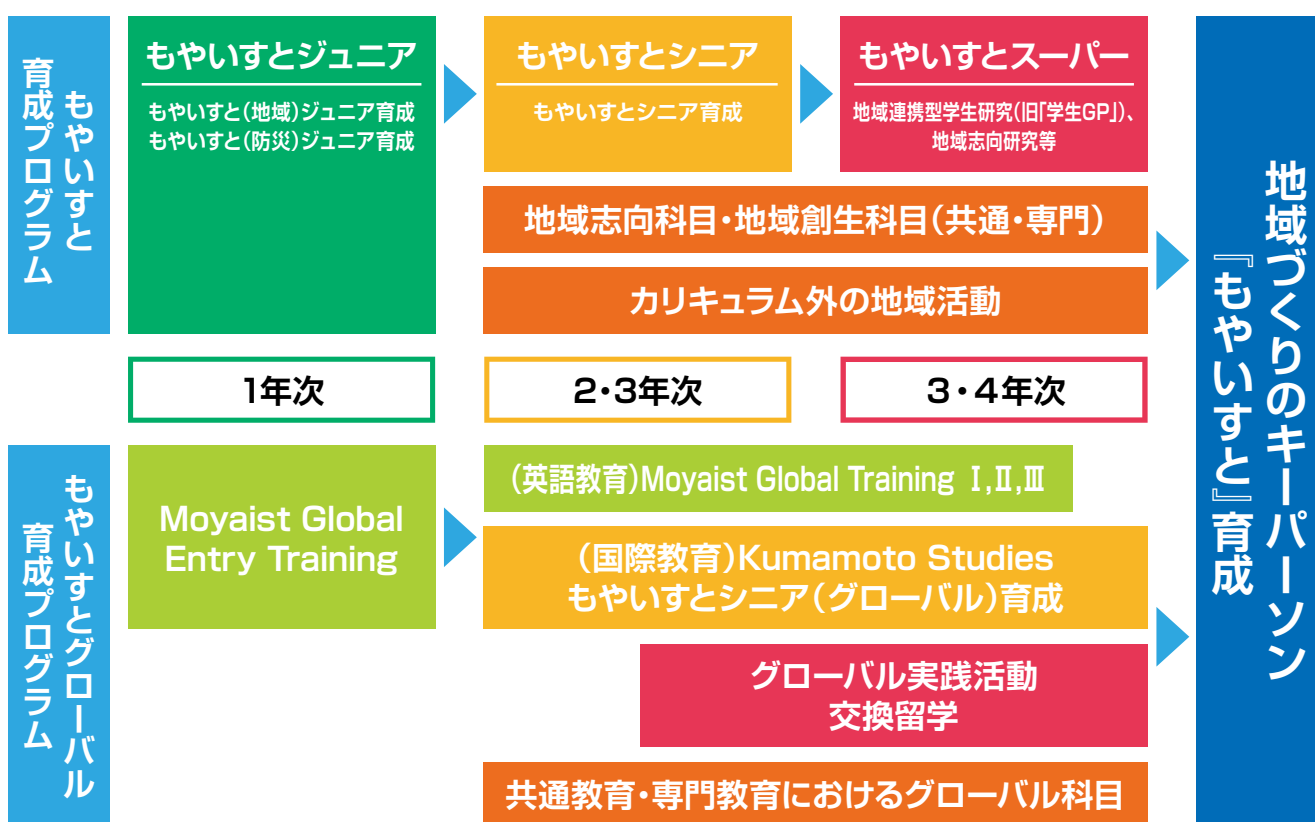
(1) もやいすと育成システム

事業概要

本学では、「地域に生き、世界に伸びる」をスローガンに掲げ、地域に根ざしながら世界を見据える人材の育成に努めています。その人材養成の目的を表す概念として、「もやいすと」という用語を用いています。この「もやいすと」の「もやい(舳い)」とは、もともと船を相互に繋ぐことを意味し、人と自然と地域社会とを再構築する「もやい直し」という言葉に由来しています。

「もやいすと育成プログラム」では、熊本の自然や文化、社会に対する理解に立ち、専門の枠を超えて、自ら課題を認識・発見し、“地域づくりのキーパーソン”として、地域の人々と協働して課題の解決に取り組む人材(もやいすと)の育成を目指します。

「もやいすとグローバル育成プログラム」では、地域課題に柔軟に対応し、グローバルな視点を持って活動できる学生の育成を目指します。



令和3年度実績

●平成29年度にカリキュラム体系外の学修成果までを含めスタートした「もやいすと評価制度」を令和3年度も継続し、「もやいすとスーパー」が2名誕生しました。

(関係団体: 熊本県、八代市坂本町、芦北町、人吉市、球磨村など)



人吉市 青井阿蘇神社の施設見学と
福川義文宮司の講話



芦北町 肥薩おれんじ鉄道佐敷駅
見学と講話



八代市坂本町 片岩地区視察

(2) 緑の流域治水

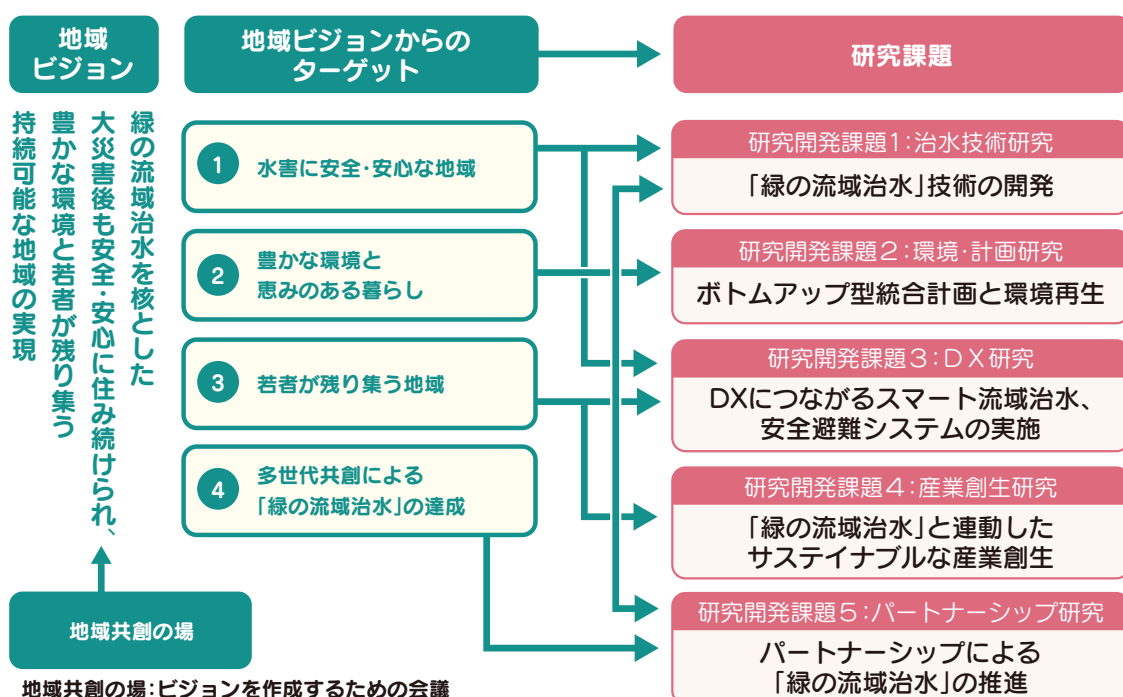
事業概要

JST(国立研究開発法人科学技術振興機構)から、令和3年度共創の場形成支援プログラム・地域共創分野の公募があり、多数の応募の中、本学を代表機関とする「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点が本格型の10年間のプロジェクトとして採択されました。

本学はこの拠点の代表機関として、SDGsやウィズ/ポストコロナ時代をふまえた未来の地域社会のあるべき姿を構想し、拠点の様々な研究や活動を通して、被災地の復興と球磨川流域の持続的発展に寄与することを目指しています。

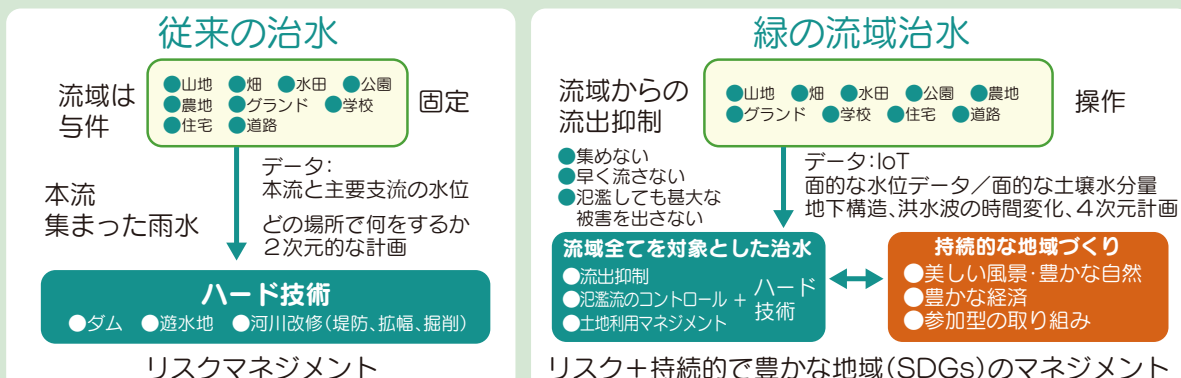
球磨川流域の持続的発展をめざし、地域ビジョンを達成するための研究開発課題

「水害への安全・安心」「豊かな環境と恵みのある暮らし」「若者が残り集う地域」「多世代による緑の流域治水の達成」の4つをターゲットとした5つの研究開発課題。10年後にめざす地域ビジョンを基に、未来の地域を見据えたバックキャスト方式で研究開発課題を設定したことが特徴的です。



「緑の流域治水」とは？

流域全体を対象に、流出抑制、氾濫流のコントロール、土地利用規制など、建造物などのハード面だけでなく、ソフト面での対策も充実させる新しい考え方の治水対策を「流域治水」といいます。すべての場所を対象とするため、地域との協働により実施することが求められます。「緑の流域治水」はこの対策に環境的な視点を組み込んだもので、持続的な地域づくりや環境保全にもつながる治水対策です。



(3) 地域連携型学生研究(旧「学生GP」)

事業概要

地域連携型学生研究制度とは、地域企業・地域社会から研究テーマを募集し、それを学生が地域連携型学生研究として取り組むものです。

学生は、地域が抱える問題に卒業研究などとして取り組むことで、社会人としての演習の場になり、実社会における知識活用のあり方、コミュニケーション力、問題分析・解決力などを会得していきます。

※令和4年度より名称が「学生GP(地域連携型卒業研究)」から「地域連携型学生研究」に変わりました。



公開審査会

令和3年度実績

	学部	研究室	連携先	テーマ
1	総合管理学部	丸山 泰	阿蘇ハイランド開発株式会社	阿蘇の観光力アップ～阿蘇の魅力を発見・発信・発展～に関する研究
2	総合管理学部	津曲 隆	熊本県立美術館 (総務企画課)	withコロナ・postコロナ時代における熊本県立美術館及び周辺文化施設の魅力発信
3	総合管理学部	津曲 隆	玉名市役所 (ふるさとセールス課観光振興係)	玉名市マスコット「タマにゃん」を活用した効果的な情報発信及び観光分野におけるDX推進についての検討
4	環境共生学部	佐藤 哲	熊本市役所 (市営住宅課・住宅政策課)	住宅ストックの有効活用
5	総合管理学部	高濱 信介	宇土市役所 (企画部企画課)	公共交通の利用促進
6	環境共生学部	柴田 祐	八代市役所 (総務企画部復興推進課)	【令和2年7月豪雨で被災した坂本町の地域振興に資する研究】テーマ① 「地域の魅力・資源を活用した観光振興及び交流人口や関係人口の拡大」について
7	環境共生学部	柴田 祐	八代市役所 (総務企画部復興推進課)	【令和2年7月豪雨で被災した坂本町の地域振興に資する研究】テーマ② 「坂本町の山林の維持・保全活動の推進」について
8	総合管理学部	宮園 博光	株式会社ジェイコム九州 熊本局	J:COMチャンネルを活用した地域課題の解決
9	総合管理学部	宮園 博光	一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団	熊本市に於ける国際化・多文化共生社会推進事業の構築
10	環境共生学部	石橋 康弘	株式会社セイブクリーン	下水処理場における最終沈殿池での藻の付着削減の取り組み
11	環境共生学部	石橋 康弘	熊本市役所 (廃棄物計画課)	プラスチック資源循環を推進するための市民意識の変革について

(4) 食育推進室

事業概要

文学部、環境共生学部、総合管理学部の3学部からなる本学では、前身の熊本女子大学から続く食と健康に関する人材育成や研究開発の実績に加え、郷土料理など食文化の保護・発信、マーケティングや政策的視点からの地域の食資源の開発をおこなっています。この実績を活かし、平成30年度には「地域の食資源を基に、本学学生の食と健康に関する理解を深め、食生活を通して健康を自己管理できる人材を育成する」こと、さらに「専門的知見を有する人材を育成し、地域の食に関する課題解決」をめざし、新たな「熊本県立大学食育ビジョン」を策定しました。

本ビジョンは、健康を自己管理できる人材を育成する「人材育成」、食育・健康・食資源に関する調査・研究開発を推進する「研究開発」、健康的な食生活を整える「食環境改善」の3つのアクションからなり、食に関する体験研修や講義、イベントなど様々な取組を実施しています。

令和3年度実績

3つのアクション	取組内容
人材育成	・食育を実施する学生グループ「たべラボ」を募集し、週に1回、昼休みの時間にワークショップ及び料理教室等を、様々な学内・学外団体と連携して対面もしくはオンラインで実施 ・山都町および人吉市において食育の日地域研修を実施 ・熊本農業高校生活科の授業にオンラインで参加して食育の日のメニューを検討 ・学食において4月に「ウェルカムウィーク」として新入生歓迎イベントを実施 ・毎月1回学食において「食育の日」を実施し、たべラボメンバーが地域研修を通して開発したオリジナルメニューを提供 ・全学生を対象としてSNSを活用した「もぐ丸かんたん料理コンテスト」を実施 ・「くまもと食育ガイドブック」を使った講義を実施（10～1月：毎週月曜日、新熊本学：熊本の生活と環境） ・令和3年度（2021年度）熊本県立大学オンライン公開講演会「トモショク（共食）は有限。食することは生きること～食育・健康フェスティバル2021～」を実施
研究開発	・本学全学生を対象とした食生活調査を実施し、現在までの食育効果を検証
食環境改善	・学食の弁当に、不足しがちな野菜をスープで補足する「ベジチャージ@学食キャンペーン」を実施 ・図書館等での展示（年4回） ・鶴屋保育所の給食監修と乳幼児とその保護者への食育推進（年間通して） ・BMI30以上の希望学生を対象に「学生対象特定保健指導（PUK'Sダイエットチャレンジ）」を実施



学生数、教職員数

(1) 学生数

学部生2,121名、大学院生84名の総計2,205名が在籍しています。

【学部】

令和4年(2022年)5月1日現在

学部名	学科名	入学 定員	収容 定員	学生数														
				1 年次			2 年次			3 年次			4 年次			合計		
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
文学部	日本語日本文学科	45	180	14	35	49	13	39	52	13	38	51	5	43	48	45	155	200
	英語英米文学科	45	180	14	40	54	13	39	52	12	34	46	16	45	61	55	158	213
	計	90	360	28	75	103	26	78	104	25	72	97	21	88	109	100	313	413
環境共生学部	環境資源学科			0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1
	居住環境学科			0	0	0	1	0	1	1	2	3	5	3	8	7	5	12
	食健康科学科			0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3	2	1	3
	環境共生学科 (うち食健康環境学専攻)	110 (40)	440 (160)	33 (1)	86 (43)	119 (44)	37 (0)	84 (40)	121 (40)	39 (1)	70 (40)	109 (41)	33 (1)	78 (41)	111 (42)	142 (3)	318 (164)	460 (167)
	計	110	440	33	86	119	38	84	122	40	72	112	41	82	123	152	324	476
総合管理学部	総合管理学科	280	1,120	125	170	295	141	160	301	136	158	294	175	167	342	577	655	1,232
	計	280	1,120	125	170	295	141	160	301	136	158	294	175	167	342	577	655	1,232
学部合計		480	1,920	186	331	517	205	322	527	201	302	503	237	337	574	829	1,292	2,121

※環境共生学部学科改組により、環境資源学科、居住環境学科及び食健康科学科については募集停止。

【大学院】

令和4年(2022年)5月1日現在

研究科名	専攻名	課程	入学 定員	収容 定員	学生数												合計		
					1 年次			2 年次			3 年次			合計			男	女	計
					男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計			
文学研究科	日本語日本文学専攻	博士前期課程	5	10	1	4	5	1	4	5				2	8	10			
		博士後期課程	2	6	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	2	2			
	英語英米文学専攻	博士前期課程	5	10	0	2	2	2	1	3				2	3	5			
		博士後期課程	2	6	2	0	2	0	0	0	1	2	3	3	2	5			
	計		14	32	3	7	10	3	5	8	1	3	4	7	15	22			
環境共生学研究科	環境共生学専攻	博士前期課程	20	40	5	10	15	3	7	10				8	17	25			
		博士後期課程	3	9	4	2	6	5	1	6	4	2	6	13	5	18			
	計		23	49	9	12	21	8	8	16	4	2	6	21	22	43			
アドミニストレーション研究科	アドミニストレーション専攻	博士前期課程	20	40	1	4	5	5	6	11				6	10	16			
		博士後期課程	4	12	0	0	0	0	0	0	2	1	3	2	1	3			
	計		24	52	1	4	5	5	6	11	2	1	3	8	11	19			
大学院合計			61	133	13	23	36	16	19	35	7	6	13	36	48	84			

【総計】

男	女	計
865	1,340	2,205
39.23%	60.77%	

(2) 教職員数

教員88名、事務職員36名により大学の運営を支えています。

令和4年(2022年)5月1日現在

	文 学 部									環境共生学部												総合管理学部			共通教育センター			合 計		
	日 本 語 日本文学科			英 米 語 英米文学科			計			環境共生学科									総 合 管 理 学 科			共 通 教 育 セ ン タ ー								
										環境資源学 専 攻			居住環境学 専 攻			食健康環境学 専 攻									計					
職位/性別	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
教 授	5	0	5	4	0	4	9	0	9	7	0	7	5	1	6	4	0	4	16	1	16	0	0	0	40	2	42			
准教授	4	2	6	1	4	5	5	6	11	2	0	2	1	1	2	2	6	8	5	7	12	12	5	17	1	0	1	23	18	41
講 師	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	2
助 教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3
助 手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	9	2	11	5	5	10	14	7	21	9	0	9	6	2	8	6	9	15	21	11	32	28	6	34	1	0	1	64	24	88

※学長を含まない。副学長を含む。

	事務局	図書館	デジタル化推進センター	地域・研究連携センター	国際教育交流センター	合計
事務職員	27	2	3	2	2	36

※事務局には、理事長及び事務局長を含まない。

総計124名

入試状況・入学者の状況

(1) 令和4年度入試状況

令和4年度入学者選抜においての志願者数(学部)は全体で2,285名でした。
 なお、一般選抜の志願倍率は、文学部5.5倍、環境共生学部6.3倍、総合管理学部5.0倍でした。

【学部】

学部	学科・専攻	年度	募集人員	一 般 選 抜					自 己 推 薦 型 選 抜			特 別 選 抜			入学者数	
				募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	競争率	合格者数	志願者数	受験者数	合格者数	志願者数	受験者数		合格者数
文 学 部	日 本 語 日 本 文 学 科	2	45	40	216	5.4	144	3.0	48	—	—	—	25	25	5	49
		3	45	40	181	4.5	128	2.7	48	—	—	—	10	10	5	50
		4	45	40	211	5.3	152	3.2	47	—	—	—	8	7	5	49
	英 語 英 米 文 学 科	2	45	38	214	5.6	124	2.4	51	—	—	—	11	11	7	48
		3	45	38	182	4.8	84	1.5	55	—	—	—	10	10	7	48
		4	45	38	220	5.8	127	2.4	52	—	—	—	14	14	8	54
	計	2	90	78	430	5.5	268	2.7	99	—	—	—	36	36	12	97
		3	90	78	363	4.7	212	2.1	103	—	—	—	20	20	12	98
		4	90	78	431	5.5	279	2.8	99	—	—	—	22	21	13	103
環 境 共 生 学 部	環 境 資 源 学 専 攻	2	30	27	233	8.6	92	2.6	36	—	—	—	10	9	4	33
		3	30	27	149	5.5	80	2.4	34	—	—	—	7	7	5	32
		4	30	27	202	7.5	99	3.3	30	—	—	—	10	10	4	33
		2	40	32	210	6.6	130	3.4	38	15	15	4	6	5	4	43
	居 住 環 境 学 専 攻	3	40	32	137	4.3	79	2.3	35	18	18	4	9	9	5	43
		4	40	32	237	7.4	148	4.4	34	16	16	4	10	10	4	41
	食 健 康 環 境 学 専 攻	2	40	36	174	4.8	109	2.7	41	—	—	—	31	30	4	41
		3	40	36	153	4.3	87	2.1	41	—	—	—	22	22	4	40
		4	40	36	156	4.3	99	2.4	41	—	—	—	21	21	5	44
	計	2	110	95	617	6.5	331	2.9	115	15	15	4	47	44	12	117
		3	110	95	439	4.6	246	2.2	110	18	18	4	38	38	14	115
		4	110	95	595	6.3	346	3.3	105	16	16	4	41	41	13	118
総 合 管 理 学 部	総 合 管 理 学 科	2	280	180	972	5.4	635	3.0	215	188	187	50	78	78	51	295
		3	280	180	1,091	6.1	666	3.1	217	173	173	50	75	75	52	292
		4	280	180	905	5.0	558	2.5	222	191	190	50	84	84	50	295
合 計		2	480	353	2,019	5.7	1,234	2.9	429	203	202	54	161	158	75	509
		3	480	353	1,893	5.4	1,124	2.6	430	191	191	54	133	133	78	505
		4	480	353	1,931	5.5	1,183	2.8	426	207	206	54	147	146	76	516

※志願倍率＝志願者数／募集人員、競争率＝受験者数／合格者数

※一般選抜の合格者数には追加合格を含まない。

※特別選抜には、学校推薦型選抜、社会人選抜、帰国子女選抜、私費外国人留学生選抜を含む。

※数値は編入学試験、再入学試験を含まない。

【大学院】

研 究 科	専 攻	博 士 前 期 課 程						博 士 後 期 課 程					
		年度	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	年度	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
文 学 研 究 科	日 本 語 日 本 文 学 専 攻	2	5	6	6	4	4	2	2	1	1	0	0
		3	5	2	2	2	2	3	2	0	0	0	0
		4	5	7	7	5	5	4	2	1	1	1	1
	英 語 英 米 文 学 専 攻	2	5	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0
		3	5	3	3	2	2	3	2	0	0	0	0
		4	5	2	2	2	2	4	2	1	1	1	1
環 境 共 生 学 研 究 科	環 境 共 生 学 専 攻	2	20	10	10	10	8	2	3	3	3	3	3
		3	20	11	11	10	10	3	3	3	3	3	3
		4	20	15	15	15	15	4	3	3	3	3	3
ア ド ミ ニ ス ト レ ー シ ョ ン 研 究 科	ア ド ミ ニ ス ト レ ー シ ョ ン 専 攻	2	20	6	6	6	6	2	4	5	5	3	3
		3	20	4	4	4	4	3	4	0	0	0	0
		4	20	5	5	5	5	4	4	0	0	0	0

(2) 令和4年度 学部入学者の状況

令和4年度入学者(学部)は、熊本県内出身者が74.6%となっています。

学科別・入学者内訳の推移

学部	学科・専攻	令和2年度							令和3年度							令和4年度						
		入学者数 (人)	男性 (人) (%)		女性 (人) (%)		熊本県内出身 (人) (%)		入学者数 (人)	男性 (人) (%)		女性 (人) (%)		熊本県内出身 (人) (%)		入学者数 (人)	男性 (人) (%)		女性 (人) (%)		熊本県内出身 (人) (%)	
文学部	日本語日本文学科	49	12	24.5	37	75.5	23	46.9	50	12	24.0	38	76.0	22	44.0	49	14	28.6	35	71.4	26	53.1
	英語英米文学科	48	14	29.2	34	70.8	29	60.4	48	10	20.8	38	79.2	28	58.3	54	14	25.9	40	74.1	37	68.5
環境共生学部	環境共生学 環境資源学専攻	33	21	63.6	12	36.4	22	66.7	32	18	56.3	14	43.8	23	71.9	33	16	48.5	17	51.5	28	84.8
	居住環境学専攻	43	20	46.5	23	53.5	23	53.5	43	16	37.2	27	62.8	31	72.1	41	15	36.6	26	63.4	23	56.1
	食健康環境学専攻	41	1	2.4	40	97.6	17	41.5	40	0	0.0	40	100.0	16	40.0	44	1	2.3	43	97.7	15	34.1
総合管理学部	総合管理学科	295	135	45.8	160	54.2	261	88.5	292	133	45.5	159	54.5	232	79.5	295	125	42.4	170	57.6	256	86.8
合 計		509	203	39.9	306	60.1	375	73.7	505	189	37.4	316	62.6	352	69.7	516	185	35.9	331	64.1	385	74.6

※数値は編入学を含む。

卒業・修了生数

開学からの卒業生総数は20,080名となっています。

	学 部				大 学 院						
	文学部	環境共生学	総合管理学部	合計	文学研究科		環境共生学研究科		アドミニストレーション研究科		合計
						博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	
令和3年度	92	103	278	473	4	1	8	3	2	0	18

※令和4年3月卒業生数(令和3年度9月卒業生は含まず)

■開学からの卒業生総数 20,080名

内訳	熊本県熊本女子専門学校卒(昭和24年度卒～昭和25年度卒)	137名
	熊本女子大学卒(昭和27年度卒～平成5年度卒)	7,611名
	熊本県立大学卒(平成6年度卒～令和2年度卒)	11,847名
	熊本県立大学卒(令和3年度卒)	3月卒前掲 473名
		9月卒 12名
	合 計	20,080名

※総数に大学院修了生数857名は含まない。

平成6年度～令和2年度修了	834名
令和3年度 3月修了(前掲)	18名
9月修了	5名
合 計	857名

進路状況

(1) 進路状況

本学の令和3年度就職率は97.4%となっています。

【学部生の過去3力年の進路状況】

令和4年(2022年)5月1日現在

		平成31年度							令和2年度							令和3年度						
		文学部		環境共生学部			総合管理 学部	合 計	文学部		環境共生学部			総合管理 学部	合 計	文学部		環境共生学部			総合管理 学部	合 計
		日本語 日本文学科	英語英米 文学科	環境資源 学科	居住環境 学科	食健康科学 科	総合管理 学科		日本語 日本文学科	英語英米 文学科	環境資源 学科	居住環境 学科	食健康科学 科	総合管理 学科		日本語 日本文学科	英語英米 文学科	環境資源 学科	居住環境 学科	食健康科学 科	総合管理 学科	
進 路 状 況	卒業生総数	42	47	26	34	39	284	472	43	45	27	42	40	284	481	47	45	32	30	41	278	473
	1 就職希望者	28	29	21	30	34	249	391	37	37	22	33	38	252	419	41	30	19	22	35	244	391
	決定者	24	29	20	30	33	247	383	35	34	21	32	38	244	404	40	28	19	22	35	237	381
	就職率(%)	85.7	100.0	95.2	100.0	97.1	99.2	98.0	94.6	91.9	95.5	97.0	100.0	96.8	96.4	97.6	93.3	100.0	100.0	100.0	97.1	97.4
	2 進学者	4	4	4	4	4	4	24	2	1	4	4	1	4	16	2	3	6	4	6	2	23
	3 留学その他	10	14	1	0	1	31	57	4	7	1	5	1	28	46	4	12	7	4	0	32	59

(2) 就職状況

就職決定者のうち半数以上が熊本県内に就職しており、地域に貢献する人材を多く排出しています。
業種別に見ると、官公庁、サービス業に多く就職していることが特徴です。

【学部生の過去3力年の就職状況】

令和4年(2022年)5月1日現在

			平成31年度								令和2年度								令和3年度										
			文学部		環境共生学部			総合管理 学部	合 計	割 合	文学部		環境共生学部			総合管理 学部	合 計	割 合	文学部		環境共生学部			総合管理 学部	合 計	割 合			
日本語日本文学科	英語英米文学科	環境資源学科	居住環境学科	食健康科学科	総合管理学科	日本語日本文学科	英語英米文学科	環境資源学科	居住環境学科	食健康科学科	総合管理学科	日本語日本文学科	英語英米文学科	環境資源学科	居住環境学科	食健康科学科	総合管理学科	日本語日本文学科	英語英米文学科	環境資源学科	居住環境学科	食健康科学科	総合管理学科	日本語日本文学科	英語英米文学科	環境資源学科	居住環境学科	食健康科学科	総合管理学科
地域別就職状況	九	州	16	18	16	20	21	199	290	75.7%	26	25	15	18	24	185	293	72.5%	32	21	14	18	26	172	283	74.3%			
	内訳	熊	本	9	9	15	13	17	158	221	57.7%	16	16	10	12	13	151	218	54.0%	17	15	11	7	13	133	196	51.4%		
		福	岡	4	7	1	5	1	35	53	13.8%	5	5	4	4	6	22	46	11.4%	4	4	3	3	8	23	45	11.8%		
		そ	の	他	3	2	0	2	3	6	16	4.2%	5	4	1	2	5	12	29	7.2%	11	2	0	8	5	16	42	11.0%	
	関	東	6	6	4	6	6	33	61	15.9%	6	4	4	8	8	43	73	18.1%	4	7	4	2	8	50	75	19.7%			
	近	畿	2	2	0	3	3	7	17	4.4%	2	4	2	3	1	8	20	5.0%	3	0	1	2	0	5	11	2.9%			
	中	部	0	1	0	0	1	2	4	1.0%	0	0	0	3	0	6	9	2.2%	1	0	0	0	0	3	4	1.0%			
	中	国・四	0	2	0	1	2	5	10	2.6%	1	1	0	0	5	2	9	2.2%	0	0	0	0	1	7	8	2.1%			
	北	海	0	0	0	0	0	1	1	0.3%	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%		
	道	・東	0	0	0	0	0	1	1	0.3%	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%		
外	国	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%			
合 計		24	29	20	30	33	247	383	100.0%	35	34	21	32	38	244	404	100.0%	40	28	19	22	35	237	381	100.0%				
業種別就職状況	建	設	業	1	1	0	19	0	16	37	9.7%	2	0	2	13	0	13	30	7.4%	0	0	2	10	0	14	26	6.8%		
	製	造	業	1	2	6	3	5	13	30	7.8%	5	5	4	3	7	24	48	11.9%	2	2	8	2	10	6	30	7.9%		
	電	気	ガ	ス	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	2	2	0.5%	1	0	0	0	0	0	1	0.3%		
	運	輸	通	信	1	10	2	2	0	25	40	10.4%	6	3	2	2	0	36	49	12.1%	1	4	0	1	1	36	43	11.3%	
	卸	小	売	り	4	2	2	1	4	35	48	12.5%	4	10	3	2	8	20	47	11.6%	8	5	1	3	7	29	53	13.9%	
	金	融	保	険	3	5	0	0	1	29	38	9.9%	3	3	0	2	0	37	45	11.1%	1	6	1	0	0	23	31	8.1%	
	不	動	産	0	0	0	2	1	7	10	2.6%	0	1	0	2	0	6	9	2.2%	2	0	0	2	0	10	14	3.7%		
	医	療	・	福	1	2	1	0	6	19	29	7.6%	1	0	1	1	8	19	30	7.4%	1	1	0	0	9	16	27	7.1%	
	サ	ー	ビ	ス	8	5	1	2	11	44	71	18.5%	4	5	3	5	8	27	52	12.9%	10	2	3	3	4	46	68	17.8%	
	教	育	4	0	4	1	4	8	21	5.5%	7	5	1	1	2	4	20	5.0%	7	3	1	0	2	3	16	4.2%			
	公 務	国	0	0	1	0	0	9	10	2.6%	0	2	2	1	0	15	20	5.0%	1	1	1	0	0	4	7	1.8%			
		県	1	2	2	0	0	22	27	7.0%	1	0	2	0	2	23	28	6.9%	2	0	2	0	1	18	23	6.0%			
		市 町 村	0	0	1	0	1	20	22	5.7%	2	0	1	0	3	18	24	5.9%	1	2	0	1	1	29	34	8.9%			
そ の 他		0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	3	2	0	0	0	3	8	2.1%				
合 計		24	29	20	30	33	247	383	100.0%	35	34	21	32	38	244	404	100.0%	40	28	19	22	35	237	381	100.0%				

※就職率＝決定者数／就職希望者数 ※各年度3月卒業生数、9月卒業生は含まず

【大学院生の過去3力年の就職状況】

令和4年(2022年)5月1日現在

			平成31年度							令和2年度							令和3年度						
			文学研究科		アドミニス レーション研究科		環境共生学 研究科		合 計	文学研究科		アドミニス レーション研究科		環境共生学 研究科		合 計	文学研究科		アドミニス レーション研究科		環境共生学 研究科		合 計
			博士 前期課程	博士 後期課程	博士 前期課程	博士 後期課程	博士 前期課程	博士 後期課程		博士 前期課程	博士 後期課程	博士 前期課程	博士 後期課程	博士 前期課程	博士 後期課程		博士 前期課程	博士 後期課程	博士 前期課程	博士 後期課程	博士 前期課程	博士 後期課程	
進路状況	内 訳	修了者総数	4	0	5	1	12	0	22	1	0	5	0	19	1	26	7	1	2	0	8	3	21
		一般・外国人入学者数	2	0	1	0	10	0	13	1	0	3	0	19	1	24	7	1	1	0	7	2	18
		社会人入学者数	0	0	4	0	2	1	7	0	0	2	0	0	0	2	0	0	1	0	1	1	3
		就職希望者数	1	0	0	0	9	0	10	1	0	2	0	14	0	17	4	1	0	0	5	2	12
		決定者数	1	0	0	0	9	0	10	1	0	2	0	14	0	17	4	1	0	0	5	2	12
		就職率(%)	100.0%	0	0	0	100.0%	0	100.0%	100.0%	0	100.0%	0	100.0%	0	100.0%	100.0%	100.0%	0	0	100.0%	100.0%	100.0%
		進学留学希望者数	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	3

(1) 地域おこしスタートアップ事業

地域貢献を目的に、地域の課題解決のための調査・研究に本学教員と自治体等が協働で取り組んでいます。

年度	H31	R2	R3
実施団体数	14 (県:5 市町村:9)	13 (県:1 市町村:12)	11 (県:1 市町村:10)

	学部	職名	教員	研究テーマ	自治体
1	環境共生学部	教授	松添 直隆	高校生JR玉名駅魅力化事業	玉名市
2	環境共生学部	教授	柴田 祐	玉名市中心市街地の歩いて楽しいまちづくりの検討	玉名市
3	総合管理学部	教授	高濱 信介	菊池市の公共交通システムに関する調査研究事業	菊池市
4	環境共生学部	准教授	佐藤 哲	自治体広域連携で考える住情報データベースの開発	宇城市
5	環境共生学部	教授	辻原 万規彦	世界遺産崎津の漁村集落としての景観維持に関する研究	天草市
6	総合管理学部	准教授	井寺 美穂	若者へ効果的に“企業情報を提供する仕組み”に関する研究	天草市
7	環境共生学部 食育推進室	教授 特任講師	柴田 祐 中村 早百合	中学校・大学連携により地域創生を継続化する取組み	和水町
8	総合管理学部	教授	高濱 信介	小国郷地域の公共交通に関する調査研究事業	小国町
9	環境共生学部	教授	柴田 祐	地域観光活性化のための地域資源の発掘とターゲットの明確化	益城町
10	環境共生学部	教授	松添 直隆	AI(人工知能)を活用した、中山間地域のお米の収量・品質予測とその利用方法の検討	山都町
11	総合管理学部	講師	岩見 麻子	気候変動適応策に関する県民意識の調査	熊本県

(2) 被災地域復興・再生支援事業

令和2年度に引き続き、令和2年7月豪雨で被災した市町村等と連携し、地域の課題解決や復興等に繋がる契機となる研究・活動等を通じて被災地域の復興・再生を支援しました。

	学部	職名	教員	研究・活動等名
1	総合管理学部	教授	高濱 信介	芦北地域復興支援事業(電動キックボードを活用した観光振興)
2	総合管理学部	教授	高濱 信介	人吉球磨地域復興支援事業(くまりばにおける研究・教育活動)
3	総合管理学部	教授	高濱 信介	人吉球磨地域におけるワーケーションの研究
4	総合管理学部	准教授 准教授 教授 教授 教授 准教授 准教授	飯島 賢志 井寺 美穂 井田 貴志 上拂 耕生 高濱 信介 本田 圭市郎 石橋 賢	KUMAJECT(クマジェクト)2021 復興・再生期の地域づくりに関する研究 一人吉球磨地域における令和2年7月水害を対象にー
5	環境共生学部	准教授	佐藤 哲	仮設住宅居住者を対象とした環境改善と居場所づくりを通じた集落復興
6	環境共生学部	教授	柴田 祐	球磨川流域の山間集落の復興まちづくりの支援
7	環境共生学部	准教授	友寄 博子	菊芋中のイヌリン含有量測定法の検討ならびに生産者・小規模事業者支援
8	環境共生学部	准教授	阿草 哲郎	球磨川流域におけるケミカルリスクマップ
9	環境共生学部	准教授	友寄 博子	被災地域の山間部の復興を目指した熊本県産の干しいたけの機能性表示に向けた成分分析ならびに消費と販売の拡大に向けた方策
10	環境共生学部	教授 准教授	松添 直隆 中嶋 名菜	芦北・水俣地域のサラダタマネギに着目した復興支援
11	環境共生学部	教授	石橋 康弘	環境資源学分野の球磨村復興支援事業(持続可能なバイオマス発電システムの提案)
12	文学部	准教授 教授	大島 明秀 鈴木 元	被災地域の学習支援
13	文学部	教授	村尾 治彦 (英語英米文学科)	被災地域での小・中学生への英語学習支援プログラム
14	総合管理学部	准教授 教授	松本 千晴 高濱 信介	球磨村村民アンケート調査および村づくり懇談会のデータ分析

(3) 外部資金による研究(令和3年度実績)

外部資金による研究（当該年度中の契約締結及び採択決定分）

（単位：件、千円）

	受託研究・共同研究		科学研究費助成事業		公募型助成金・補助金等		教育研究奨励寄附金		合 計	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
平成31年度	25	24,536	40	61,770	19	19,716	7	1,523	91	107,545
令和 2年度	19	13,473	40	50,440	15	22,798	5	2,700	79	89,411
令和 3年度	21 ^{※1}	20,872	44	54,679	10 ^{※2}	63,101	6	2,570	81	141,222
※1 令和4年度研究開始分 1件 10,000,000円含む			※2 令和4年度研究開始分 1件 1,023,000円含む							

① 令和3年度内訳（科学研究費助成事業を除く）

	相手先	件数(件)	金額(千円)
受託研究・共同研究	民間企業	13	17,315
	省庁	1	1,600
	県、市町村	2	357
	大学、研究機関等	5	1,600
	計	21	20,872
公募型助成金・補助金等	民間企業	4	1,350
	省庁	2	56,628
	財団法人	4	5,123
	計	10	63,101
教育研究奨励寄附金	民間企業	4	1,800
	大学、研究機関等	1	470
	その他	1	300
	計	6	2,570

② 令和3年度科学研究費助成事業内訳 研究種目別の件数・金額

研究種目	件数	金額(千円)
挑戦的研究(萌芽)	1	1,950
基盤研究(B)	4	21,199
基盤研究(C)	28	23,660
若手研究(B)	3	0
若手研究	6	3,770
研究成果公開促進費	1	2,200
二国間交流事業	1	1,900
計	44	54,679

※ 各項目の数値は、表示単位未満を四捨五入したものであり、その内訳は合計と一致しない場合があります。

※令和3年度研究課題一覧

研究種目	研究代表者			研究課題名
	学部	職名	氏名	
基盤研究（B）	環境共生学部	教授	松添 直隆	トマトの難防除土壌伝染性病害である青枯病と半萎凋病に対する新しい防除法の確立
基盤研究（B）	環境共生学部	教授	張 代洲	黄砂の生物化学組成の同定とその大気放射収支へ及ぼす影響の解明
基盤研究（B）	環境共生学部	准教授	小林 淳	イオン性化学物質の生物濃縮特性の解明と予測手法の開発
基盤研究（B）	共通教育センター	准教授	難波 美和子	現代インドの英語文学：インド社会の変容とグローバル化のはざままで
研究成果公開促進費（学術図書）	共通教育センター	教授	山田 俊	金朝道家道教の諸相
挑戦的研究（萌芽）	環境共生学部	教授	松添 直隆	スマート農業を推進する小型球体ロボットの開発
基盤研究（C）	文学部	教授	R・S レイヴィン	Advancing written corrective feedback: developing and testing a support site for writers
基盤研究（C）	文学部	教授	村尾 治彦	日本語の構文ネットワークを基盤とした事態認知モデル
基盤研究（C）	文学部	教授	米谷 隆史	近世東北の写本辞書に見える地域性の諸相に関する研究
基盤研究（C）	文学部	教授	鈴木 元	臼杵市加島家資料の総合的研究
基盤研究（C）	文学部	教授	吉井 誠	潜在意味解析モデルを用いた語彙学習の予測と妥当性の検証：多量のインプットの役割
基盤研究（C）	文学部	准教授	小川 晋史	熊本県東北部における方言の記述的研究
基盤研究（C）	文学部	准教授	大島 明秀	近代熊本の歴史家が収集した和本・蘭書コレクション
基盤研究（C）	環境共生学部	教授	白土 英樹	熊本県産柑橘精油ならびに精油添加果実飲料のストレス低減効果の検証
基盤研究（C）	環境共生学部	教授	柴田 祐	住民組織による地区レベルの復興まちづくりプロセスの共通フレームの定立
基盤研究（C）	環境共生学部	教授	辻原 万規彦	戦前期に日本の影響下にあった地域における製糖工場の建設と地域開発の関係
基盤研究（C）	環境共生学部	教授	辻原 万規彦	清朝末期から日本統治初期の台湾において製糖業が地域開発に与えた影響
基盤研究（C）	環境共生学部	教授	松本 直幸	特性が異なる身体活動の選択的認知機能改善効果とその作用を修飾する食品成分の解明
基盤研究（C）	環境共生学部	准教授	阿南 弥寿美	天然セレン化合物の水銀との相互作用および水銀解毒効果の解明
基盤研究（C）	環境共生学部	准教授	友寄 博子	経口摂取可能なインスリン代替機能性成分の実用化に向けた研究
基盤研究（C）	環境共生学部	准教授	坂本 達昭	生活困窮世帯の子どもの料理スキルと自己肯定感を高める食支援に関する実証的研究
基盤研究（C）	環境共生学部	准教授	一宮 睦雄	黒潮の生産力を向上させる黒潮分岐流域の低次生産構造
基盤研究（C）	環境共生学部	准教授	阿草 哲郎	地下水ヒ素汚染地域における大気ヒ素汚染とヒトへの曝露影響
基盤研究（C）	環境共生学部	准教授	吉田 卓矢	慢性腎臓病の腎線維化に食餌および運動が与える影響の検討
基盤研究（C）	環境共生学部	准教授	小森田 智大	干潟で大增殖するホトギスガイ（二枚貝・イガイ科）を支える餌供給過程の解明
基盤研究（C）	環境共生学部	助教	谷村 綾子	酪酸のマクロファージに与える影響の明確化とクローン病新規食事療法の開発
基盤研究（C）	総合管理学部	教授	小泉 和重	非合併小規模山村自治体の財政パフォーマンスの変化
基盤研究（C）	総合管理学部	教授	望月 信幸	マネジメント・コントロール・システムの拡張可能性：企業と地域の共助を目指して
基盤研究（C）	総合管理学部	准教授	河西 卓弥	M&Aと研究開発に関する実証分析
基盤研究（C）	総合管理学部	准教授	森山 賀文	グループの概念を有しない多目的量子風進化計算手法とその整数計画問題への展開
基盤研究（C）	総合管理学部	准教授	本田 圭市郎	廃棄物政策による国際貿易および企業行動への影響に関する実証的研究
基盤研究（C）	共通教育センター	教授	津曲 隆	新たな地域志向教育のための大学生の地元就職決定要因の定量的研究
基盤研究（C）	共通教育センター	准教授	青木 朋子	把握運動における道具使用の有無と課題難易度の観点からみた利き手形成機序の解明
基盤研究（C）	共通教育センター	准教授	石井 佳世	常識的見解の功罪をふまえたDV支援活動の啓発—DVに対する一般常識の把握を通して
二国間交流事業	環境共生学部	准教授	阿草 哲郎	ミャンマーにおける化学物質による環境汚染の実態と曝露の低減化方法の開発
若手研究（B）	文学部	准教授	羽鳥 隆英	戦後期「新国劇」と映画・テレビ・ラジオの相関性の研究
若手研究（B）	環境共生学部	准教授	中嶋 名菜	低温下の誤嚥リスクを低減するための至適真空調理プロトコルの開発
若手研究（B）	総合管理学部	准教授	三田 知実	衣料産業におけるグローバルな都市間分業—持続的都市成長の原動力—
若手研究	総合管理学部	准教授	松本 千晴	地域難病患者会を核とした災害時にも対応できるネットワークの構築
若手研究	総合管理学部	准教授	西森 利樹	低所得者に対する成年後見支援のあり方—公的後見制度の導入可能性—
若手研究	共通教育センター	准教授	原 紘子	Participatory Filmmaking as a New Pedagogy: Enhancing Active Learning and Global Competence
若手研究	総合管理学部	准教授	石橋 賢	ベイズ推定によるデータ駆動型の配色と言葉の相互変換手法とデザイン支援への応用
若手研究	総合管理学部	講師	関 智弘	生活保護政策の実施主体の選択に関する研究
若手研究	総合管理学部	講師	岩見 麻子	公共的意思決定過程の委員会における意見の構造の把握手法の開発

※ 職名は採択当時のもの

(1) 生涯学習

① 授業公開講座

地域の方々に学習の機会を提供することを目的として、大学の正規の授業を公開し、本学学生と一緒に受講する制度です。(平成2年度～)

- 講 座：教養科目、言語・文学、環境・栄養学、経済・法律・行政学・IT等
- 受講資格：学生を除く、18歳以上の方
- 受講期間：前期（4月～7月）、後期（10月～2月）、通年（4月～2月）
- 受 講 料：1講座につき、半期（週1回） 5,000円、通年（週1回） 10,000円
半期（週2回） 10,000円、通年（週2回） 20,000円

しかし、新型コロナウイルス感染予防のため、令和2年度以降対面での授業公開講座を休止しています。そこで、新しい取組として「オンライン授業公開講座」を実施しています。

- 講 座：言語・文学、環境・建築・健康、経済・法律・行政学・IT 等
- 受講資格：18歳以上の方で、受講規約に同意した方。
- 受講方法：Microsoft Teams を利用したオンデマンド受講
- 受講期間：夏期（7月～10月）、冬期（12月～3月）
- 受 講 料：1講座につき 5,000 円

【受講状況】

年次	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
講座数(前期・通年)	90	83	81	83	76	58	63	49	-	-
講座数(後期)	87	88	77	67	65	51	50	46	-	-
講座数(オンライン)	-	-	-	-	-	-	-	-	9	24
講座数計	177	171	158	150	141	109	113	95	9	24
申込者数(延べ)	570	517	480	401	374	249	216	225	295	50
受講決定者数(延べ)	464	452	411	351	319	227	187	192	295	50

※ 令和2年度はトライアル事業として、「オンライン授業公開講座」を実施（高校生以上を対象とし受講料無料）

② CPD(Continuing Professional Development)講座 継続的専門職能開発プログラム

【令和3年度開講実績】

	名称・講師	開催日程	内 容	受講者数
1	看護職のためのオンラインセミナー「小論文編」 講師：熊本県立大学 総合管理学部 教授 中尾 富士子氏	【LIVE 参加(対面・オンライン)】 R3.12.17(金)19:00～20:30 【オンデマンド配信】 R4.3.1～R4.5.8	文章を書く際の「自分のくせや傾向」を知って、基本的な文章の書き方や注意点などを学ぶ。	25名
2	看護管理者のためのオンラインセミナー「研究論文編」 講師：熊本県立大学 総合管理学部 教授 中尾 富士子氏	【LIVE 参加(対面・オンライン)】 R4.1.21(金)19:00～20:30 【オンデマンド配信】 R4.3.1～R4.5.8	論文の目的別書き方の例として、研究論文の構成を基に基本的な研究論文の書き方・読み方のポイントを学ぶ。	28名
3	疫病との闘い 熊本 講師：熊本県立大学 文学部 准教授 大島 明秀氏 熊本県立図書館 学芸調査課 課長 丸山 伸治氏 熊本看護協会 会長 本 尚美氏	【LIVE 参加(オンライン)】 R3.12.18(土)13:00～16:00	熊本でもこれまで幾多の疫病に見舞われ、多くの犠牲を払いながらもそれらを乗り越え、現在も新型コロナとの懸命な闘いが行われている。闘いの歴史を振り返り、新型コロナへの対応に資する知識を得、将来の展望を探る。	42名
4	デジタル社会と個人情報保護～2021年個人情報保護法改正と自治体の業務 講師：熊本県立大学 総合管理学部 教授 上拂 耕生氏	【LIVE 参加(オンライン)】 R4.2.22(火)14:00～15:30 【オンデマンド配信】 R4.3.8～R4.3.31	現行の個人情報保護制度における基本ルールの解釈運用とともに、デジタル社会における個人情報の保護と利活用のあり方について解説。また、行政事務の実例や質問を募り、講師による回答をオンデマンド配信で提供した。	15名

③ 各種公開講座、バーチャルキャンパス等

本学は、本学の教員等が多様な手段で、県民の生涯学習のニーズへの対応や研究成果の地域への還元を行うことにより、大学全体として地域貢献を推進していくことを目的として、公開講座やシンポジウムを実施しています。ここでは、本学、各学部主催、あるいは他団体等との共催等により開催した各種公開講座等を紹介します。

【令和3年度開催実績】

名 称	開催日程	内 容	受講者数
【特別講座】球磨川流域圏バーチャルキャンパス 「私が考える流域治水とは～流域治水って何？」	【オンデマンド配信】 当初 R3.9.1(水)～R3.10.31(日) 追加 R3.11.1(月)～R3.12.31(金) *Microsoft Teams 利用	国が提案している流域治水と熊本県が提唱している緑の流域治水の違い。熊本県立大学でこれから進める予定の緑の流域治水の取組みを紹介します。 講師：熊本県立大学 共通教育センター 緑の流域治水研究室 特別教授 島谷 幸宏 氏	207名
【特別講座】球磨川流域圏バーチャルキャンパス 「災害と復興まちづくり」	【オンデマンド配信】 当初 R3.9.8(水)～R3.10.31(日) 追加 R3.11.1(月)～R3.12.31(金) *Microsoft Teams 利用	地域の復興は、被災した一軒一軒の住宅の再建と暮らしの回復の積み重ねでしか実現できません。また、人口減少と高齢化が進む地域の将来について住民同士で話し合うことも必要です。個々の課題と地域の課題をつなげ、ピンチをチャンスにして復興まちづくりをどう進めるのか、熊本地震の被災地の事例を紹介しながら考えます。 講師：熊本県立大学 環境共生学部 居住環境学専攻 教授 柴田 祐 氏	207名
【特別講座】球磨川流域圏バーチャルキャンパス 「球磨川流域圏の歴史と文化」	【オンデマンド配信】 当初R3.9.15(水)～R3.10.31(日) 追加R3.11.1(月)～R3.12.31(金) *Microsoft Teams 利用	球磨川流域圏の人類史は、東アジアの原人から進化した旧人たちの時代に遡ります。10数万年前の日本最古の時代です。ではなぜ早く活動の場の一つに選ばれたのでしょうか。そう問えば、ある環境特性が想起されます。様々な環境特性を基調に成り立ってきた球磨川流域圏の歴史と文化です。それを跡付け、その魅力に迫ります。 講師：八洲開発株式会社 取締役 木崎 康弘 氏	207名
【特別講座】球磨川流域圏バーチャルキャンパス 「球磨川の暮らしに育まれた八代市坂本町の歴史的建造物」	【オンデマンド配信】 当初R3.9.22(水)～R3.10.31(日) 追加R3.11.1(月)～R3.12.31(金) *Microsoft Teams 利用	令和2年7月豪雨の被害にあった球磨川沿いの八代市坂本町。ここに残る神社、役場、旅館といった歴史的建造物や民家をとり上げ、その豊かな特徴についてお話しします。それらの織りなす風景が、変遷する地域の暮らしや球磨川との関わりから結実していることが見てきます。またそれらの復旧、復興の状況もお伝えします。 講師：熊本高等専門学校 建築社会デザイン工学科 教授 森山 学 氏	207名
【研究成果報告会】 「“地元企業の課題解決”最終報告会」	【LIVE参加(対面・オンライン)】 R3.7.31(土) 13:00～16:00 *Youtube限定生配信	総合管理学部 課題解決実践授業「(通称)ガチカリ」で、学生が4カ月取り組んできた成果を発表。	—
【公開講演会】 「客員教授・園部哲史氏講演会」	【オンデマンド配信】 R3.10.1(金)～R3.12.31(金) *Microsoft Teams 利用	演題「国際協力のこの頃」 講師：アジア開発銀行研究所長 園部 哲史 氏	59名
【公開講演会】 「客員教授・村田晃嗣氏講演会」	【オンデマンド配信】 R3.12.1(水)～R4.2.28(月) *Microsoft Teams 利用	演題「バイデン政権下の日米関係」 講師：同志社大学 法学部政治学科 教授 村田 晃嗣 氏	40名
【公開講演会】 「Journey of Innobation ～社会起業家の人生を追体験する90分～」	【LIVE参加(オンライン)】 R3.10.23(土) 13:00～14:30 *Zoom&Youtube 生配信	システムチェンジメーカーと呼ばれる社会起業家の変革者としての芽が、子どもの頃からどのような道のりを経て花開いていったのか…その軌跡を辿る90分。 講師：ケアプロ株式会社 創設者・代表 川添 高志 氏	—
【公開講演会】 「トモショク(共食)は有限。食えることは生きること」	【オンデマンド配信】 R3.12.21(火)～R4.2.28(月) *Microsoft Teams 利用	年1回開催している「食育・健康フェスティバル」として開講。 講師：株式会社ビストロババ 代表取締役 滝村 雅晴 氏	61名
【公開講演会】 「客員教授・渡辺満利子氏講演会」	【オンデマンド配信】 R4.2.1(火)～R4.3.31(木) *Microsoft Teams 利用	演題「今こそ、免疫力アップをめざしましょう」 講師：昭和女子大学 名誉教授 渡辺 満利子 氏	22名

※球磨川流域圏バーチャルキャンパス



2021年9月1日(水) 配信予定
私が考える流域治水とは～流域治水って何？～
熊本県立大学 共通教育センター 緑の流域治水研究室
特別教授 島谷 幸宏 氏



2021年9月8日(水) 配信予定
災害と復興まちづくり
熊本県立大学 環境共生学部 居住環境学専攻 特別教授 柴田 祐 氏

④ 農業アカデミー

事業概要

本学と熊本県（農林水産部、農業研究センター、農業大学校）、東海大学の3機関が中心となり、産業技術センター、農業関係高校、農業改良普及組織、農業団体、民間会社等県内の農業に関係する多くの機関と連携して、最新の農業知識や農業技術等をテーマとした講座を開催します。県内の意欲ある農業者等、それぞれの新たな学びの挑戦を応援しています。

令和3年度は規模を縮小してのオンライン開催となりました。

(2) 地域との連携

① 包括協定

本学と自治体・企業等が、地域における活動や調査・研究、人材育成、産業振興、地域づくり等様々な分野において相互に協力することを目的として協定を締結する包括協定制度を整備しています。包括協定を締結することにより、本学と協定先が連携協力して地域の課題に取り組む体制を構築します。

令和4年5月現在、22自治体、1研究機関、2団体と協定を結び、以下のような取組を実施しています。

包括協定先（22自治体）

H18	小国町、あさぎり町、和水町、菊陽町、天草市
H19	水俣市、宇城市、菊池市
H20	大津町、人吉市、御船町
H22	合志市、玉名市
H23	山都町
H25	八代市、相良村、高森町
H26	五木村
H29	益城町、水上村
R1	上天草市
R3	多良木町 ※



包括協定先（企業・試験研究機関 1研究機関、2団体）

H21	熊本県農業研究センター
H26	一般社団法人熊本県工業連合会
R3	一般財団法人たらぎまちづくり推進機構 ※

※ 3者協定締結

主な活動

■ なごみの里づくりプロジェクト（和水町特定寄付金事業）

なごみの里協議会と協働してなごみの里山活性化に取り組んでいます。

【これまでの実績】

- ・地域住民と学生が考える和水町空き家の利活用検討
- ・なごみの里の自然を活用した体験型エンターテインメント場の整備
- ・和水町産タケノコを利用したメンマ製造



■ 白亜祭における包括協定自治体フェアの実施

- (H29) 5団体（玉名市、天草市、大津町、和水町、相良村）
- (H30) 5団体（玉名市、天草市、大津町、和水町、合志市）
- (H31) 4団体（玉名市、天草市、大津町、菊池市）
- (R2～3) 中止



② 協力講座

本学は、「地域に生き、世界に伸びる」を標榜し、地域実学主義に基づく教育を学生に提供するための各種取組を行っています。

この取組の一環として、企業の持つ実践的知識を学生に提供する機会を設けることを目的に、大学と企業等とが協定を締結し、協定先の企業等が本学の正規の授業について担当する「協力講座」を実施しています。

協力講座協定

	企 業 名	講 座 名
H19～	熊本日新聞社	マスメディア論(後期15回)
	九州電力	エネルギーと社会(前期15回)
	西日本電信電話	情報と社会(前期15回)

連携大学院協定

	企 業 名
H25～	国立水俣病総合研究センター

③ 地域・行政・産業界との連携

企業や県・市町村への研修講師、各種審議会等への委員派遣等を行っています。また、県や国、企業等からの受託研究・共同研究等を実施するとともに、民間企業等から寄附金を受け入れています。

内 容	令和3年度実績
●受託研究・共同研究	21件
●科学研究費助成事業	44件
●公募型助成・補助金等	10件
●教育研究奨励寄附金	6件
●講師派遣等	70件
●各種審議会等への委員派遣	161件
●各種団体からの研究員の受入	19件

④ 高大連携

大学における高度な教育・研究に触れる機会や学部選択に関する情報を高校生に提供するとともに、大学教育のより一層の充実・発展を図ることを目的として取り組んでいます。



令和3年度実績	開催日	備 考
出張講義	通 年	9回開催
高校訪問	通 年	新型コロナウイルス感染症のため実績なし
学内見学	通 年	新型コロナウイルス感染症のため実績なし
スーパーイングリッシュキャンプ	①R3.9.11 ②R3.11.6	県内中高生20名が参加
令和3年度高大連携講座 (1)SDGsと日本の国際協力 (2)SDGsと多文化共生社会の実現	R3.7.14～R3.12.16	県内11高校が参加

大韓民国
祥明大學校
との交流

- 1989(H1).10.17 姉妹提携締結
- 1997(H9). 2.28 単位互換及び授業料相互不徴収を内容とする学生交流協定を締結
- 交流状況・短期交換研修生の受入
 - ・1年間の交換留学生の受入や派遣
 - ・日本語教員養成課程教育実習生の派遣

アメリカ合衆国
モンタナ州立大学
との交流

- 1997(H 9). 9 熊本県と姉妹都市提携を結んでいる米国・モンタナ州のモンタナ州立大学との間で学生交流協定を締結
 - ボーズマン校:1997.9.23締結
 - ビリングス校:1997.9.25締結
- 1998(H10).5.15 単位互換及び授業料相互不徴収を内容とする学生交流に関する実施協定を両校と締結
- 交流状況
 - ・約4週間の短期研修生の派遣
 - ・約9ヶ月間の交換留学生の受入及び派遣

その他の
協定校・機関

- 2003(H15). 7. 9 海洋大學校(韓国)
- 2003(H15).11.28 ワイラック大学(タイ)
- 2005(H17). 4.13 広西大学(中華人民共和国)
- 2006(H18). 6.29 国立台北科技大學(台湾)
- 2011(H23). 6. 1 開南大學(台湾)
- 2011(H23). 6.17 ソウル市立大學校(韓国)
- 2013(H25). 2.18 カセサート大学(タイ)
- 2015(H27). 9.26 ブラウイジャヤ大学(インドネシア)
- 2016(H28). 1.13 中原大学(台湾)
- 2016(H28).11.29 チャタム大学(アメリカ合衆国)
- 2017(H29). 7.11 海南省疾病预防控制中心(中華人民共和国)
- 2019(R 1).10.21 モンタナ大学(アメリカ)



インドネシア・ブラウイジャヤ大学との交流の様子
オンラインによりブラウイジャヤ大学との交流イベントを実施(R2.12)

外国人
留学生の
受入

1988(S63)年から、外国人留学生の受入を実施。中華人民共和国、大韓民国からの学部生や大学院生、研究生などが本学で学んでいます。

(令和3年度実績)

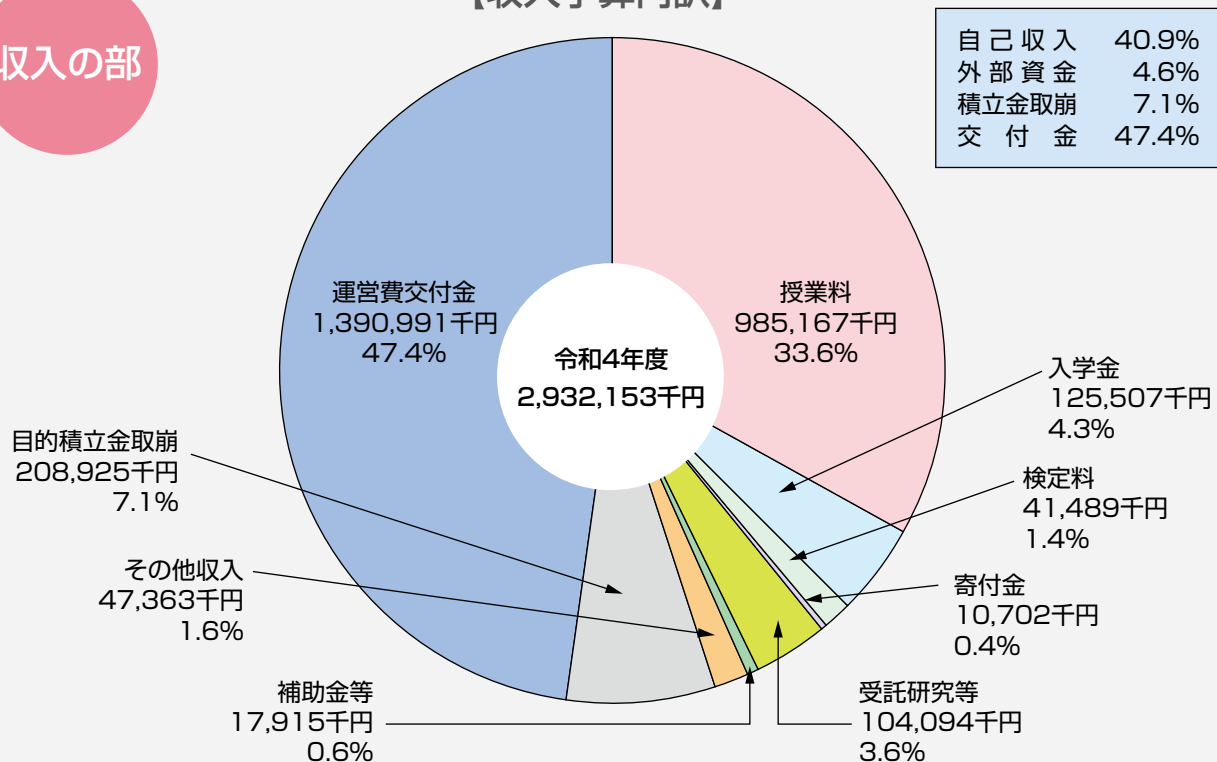
出身地域	学部生	大学院生	研究生	特別聴講学生	計
中華人民共和国	0	3	5	0	8
大韓民国	1	1	0	0	2
ベトナム	0	2	0	0	2
タイ	0	1	0	0	1
インドネシア	0	2	0	0	2
ミャンマー	0	1	0	0	1
ガーナ	0	1	0	0	1
スーダン	0	1	0	0	1
アメリカ合衆国	0	0	0	2	2
計	1	12	5	2	20

(1) 令和4年度(2022年度)予算額

〈令和4年4月1日～令和5年3月31日〉

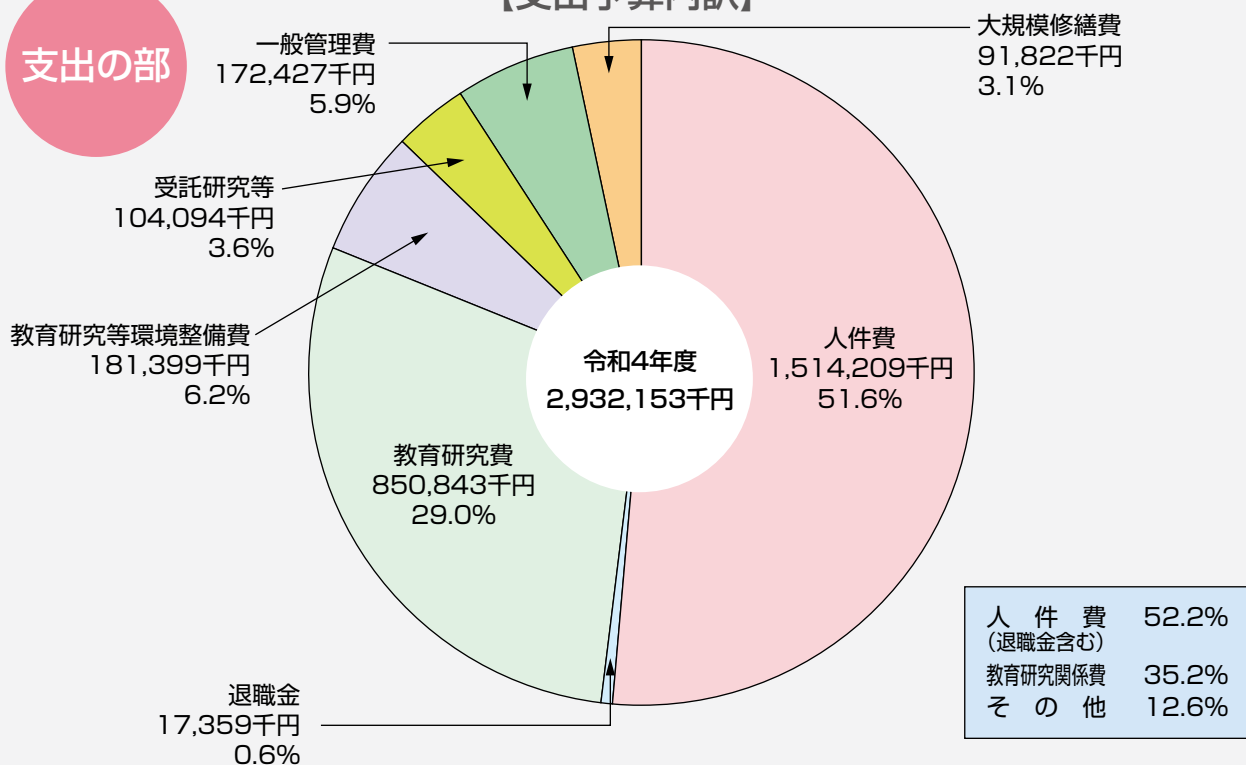
収入の部

【収入予算内訳】



支出の部

【支出予算内訳】



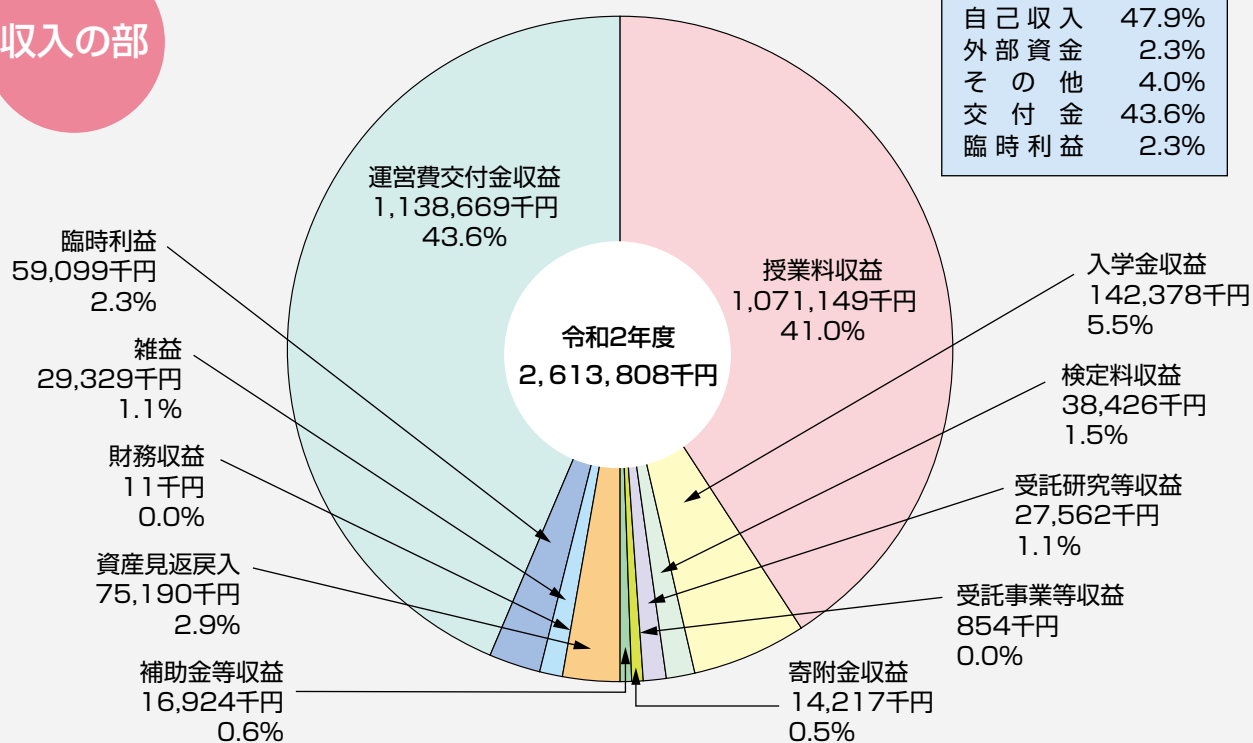
※ 予算総額に占める割合は、表示単位未満を四捨五入したものであり、その内訳は合計と一致しない場合があります。

(2) 令和2年度決算額及び決算の概要(令和3年(2021年)8月16日 熊本県知事承認)

〈令和2年4月1日～令和3年3月31日〉

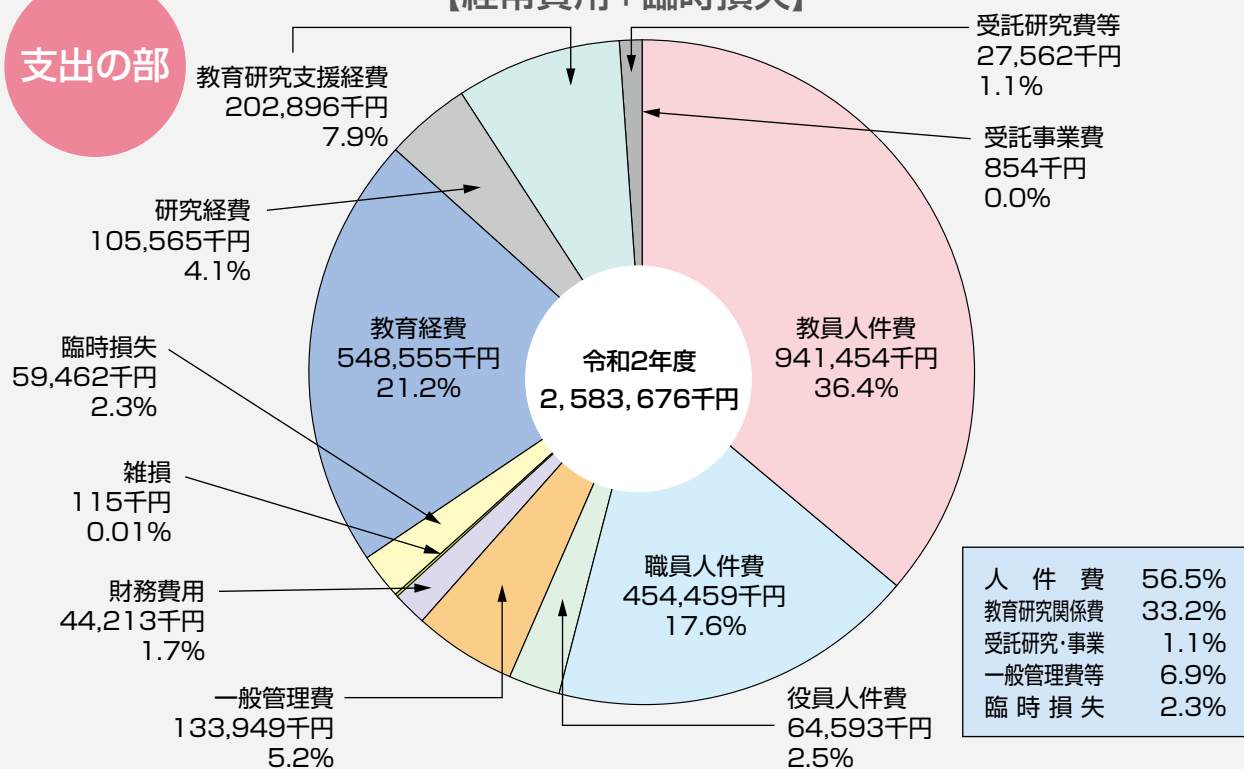
収入の部

【経常収益+臨時利益】



支出の部

【経常費用+臨時損失】



※ 総額に占める割合は、表示単位未満を四捨五入したものであり、その内訳は合計と一致しない場合があります。

令和2年度決算の概要

1 財政状態

●貸借対照表

(令和3年(2021年)3月31日)

(単位:千円)

資産の部		負債の部	
I 固定資産	12,923,917	I 固定負債	2,281,122
有形固定資産	12,909,611	II 流動負債	579,828
土地	9,088,942	負債合計	2,860,950
建物	2,092,390	純資産の部	
その他	1,728,279	I 資本金	12,166,185
無形固定資産	13,802	II 資本剰余金	△ 1,539,865
投資その他の資産	504	資本剰余金	627,700
		損益外減価償却累計額 (△)	△ 2,167,277
		損益外減損損失累計額 (△)	△ 288
II 流動資産	1,093,248	III 利益剰余金	529,895
現金及び預金	1,042,561	前中期目標期間繰越積立金	180,304
その他の流動資産	50,687	教育研究等環境整備目的積立金	315,452
		当期末処分利益	34,139
		純資産合計	11,156,215
資産合計	14,017,165	負債純資産合計	14,017,165

2 運営状況

●損益計算書

(令和2年(2020年)4月1日から令和3年(2021年)3月31日まで)(単位:千円)

経常費用	2,524,214
人件費	1,460,506
教育研究費	857,016
受託研究費等	28,415
一般管理費	133,949
財務費用等	44,328
経常収益	2,554,709
運営費交付金収益	1,138,669
授業料等収益	1,251,954
受託研究等収益	28,415
補助金等収益	16,924
寄附金収益	14,217
その他収益	104,530
経常利益	30,495
臨時損失	△ 59,462
臨時利益	59,099
目的積立金取崩額	4,007
当期総利益	34,139

3 資金収支の状況

●キャッシュ・フロー計算書

(令和2年(2020年)4月1日から令和3年(2021年)3月31日まで) (単位:千円)

I 業務活動によるキャッシュ・フロー	347,729
業務活動による支出	△ 2,220,069
業務活動による収入	2,567,798
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 71,769
固定資産の取得による支出	△ 71,780
固定資産売却及び利息受取りによる収入	11
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 123,259
リース債務償還等による支出	△ 79,046
利息の支払いによる支出	△ 44,213
IV 資金増加額 (I+II+III)	152,701
V 資金期首残高	889,861
VI 資金期末残高 (IV+V)	1,042,561

4 法人運営に関する住民等への負担額

●行政サービス実施コスト計算書

(令和2年(2020年)4月1日から令和3年(2021年)3月31日まで) (単位:千円)

I 業務費用	1,196,000
(1) 損益計算書上の費用	2,583,676
(2) (控除) 自己収入等	△ 1,387,676
II 損益外減価償却等相当額	120,318
III 損益外除売却差額相当額	0
IV 引当外賞与増加見積額	△ 3,788
V 引当外退職給付増加見積額	14,786
VI 機会費用	12,489
VII 行政サービス実施コスト (I+II+III+IV+V+VI)	1,339,805

5 利益処分の内容

●利益の処分に関する書類

(単位:千円)

I 当期末処分利益	34,139,096
当期総利益	34,139,096
II 利益処分額	
教育研究等環境整備目的積立金	34,139,096

6 予算の執行状況

●決算報告書

(令和2年(2020年)4月1日から令和3年(2021年)3月31日まで) (単位:千円)

区 分	予算額	決算額	決算-予算
収入	2,680,125	2,552,095	△ 128,030
運営費交付金	1,195,687	1,258,005	62,318
自己収入	1,311,218	1,290,081	△ 21,137
目的積立金取崩	173,220	4,007	△ 169,213
支出	2,680,125	2,493,472	△ 186,652
教育研究経費	1,910,340	1,809,659	△ 100,681
一般管理費	733,802	654,068	△ 79,734
受託研究費等	35,983	29,745	△ 6,238
収入-支出	0	58,622	58,622

注) 各項目の計数は、表示単位未満を四捨五入したものであり、その内訳は合計と一致しない場合があります。

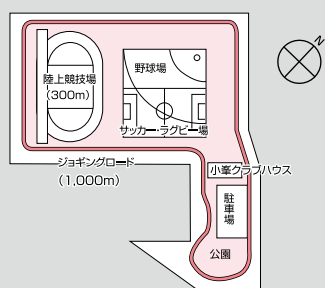
注) 損益計算書上の当期総利益(34,139千円)と決算報告書上の収支差額(58,622千円)とは一致しませんが、これは、発生主義(損益計算書)と現金主義(決算報告書)との違いが要因です。



E

- 1 本部棟
- 2 中ホール
- 3 キャリアセンター
- 4 サブアリーナ
- 5 CPDホール
- 6 アリーナ
- 7 大学会館
- 8 講義棟1号館
- 9 小ホール
- 10 文学部棟
- 11 環境共生学部西棟
- 12 環境共生学部北棟
- 13 環境共生学部南棟
- 14 構造実験棟
- 15 グローカル棟
- 16 図書館
- 17 講義棟2号館
- 18 大ホール
- 19 総合管理学部棟
- 20 第1クラブ室
- 21 第2クラブ室
- A キャンパスプラザ
- B アカデミックプラザ
- C テニスコート
- D キャンパスギャラリー
- E プール
- F 月出フィールド
- 障がい者駐車場

熊本県立大学 小峯グラウンド配置図



所在地	熊本市東区小峯3丁目2613-1
面積	52,898m ²
建物延床面積(小峯クラブハウス)	684m ²
施設	野球場・サッカー場・ラグビー場・陸上競技場

●土地及び建物

土地

(単位:m²)

区 分	面 積
校 舎 敷 地	80,092
運 動 用 地 (月出フィールド) (小峯グラウンド)	60,754 (7,856) (52,898)
その他(教員住宅用地)	2,484
合 計	143,330

建 物

(単位:m²)

区 分	延床面積
1 本 部 棟	1,502
2 中 ホ ー ル	467
3 キャリアセンター	513
4 5 サブアリーナ・CPDホール	1,348
6 ア リ ー ナ	2,550
7 大 学 会 館	1,190
8 講 義 棟 1 号 館	1,898
10 文 学 部 棟	3,108
11 環境共生学部西棟	6,318
12 13 環境共生学部北棟・南棟	5,576
14 構 造 実 験 棟	540
15 グローカル棟	1,550
16 図 書 館	3,847
17 講 義 棟 2 号 館	2,737
18 大 ホ ー ル	1,500
19 総合管理学部棟	5,583
20 第 1 クラブ室	456
21 第 2 クラブ室	507
小峯クラブハウス	684
温 室	128
そ の 他	156
小 計	42,158
教 員 住 宅	2,948
合 計	45,106

熊本市東区月出3丁目1-100

87,948m²41,474m²

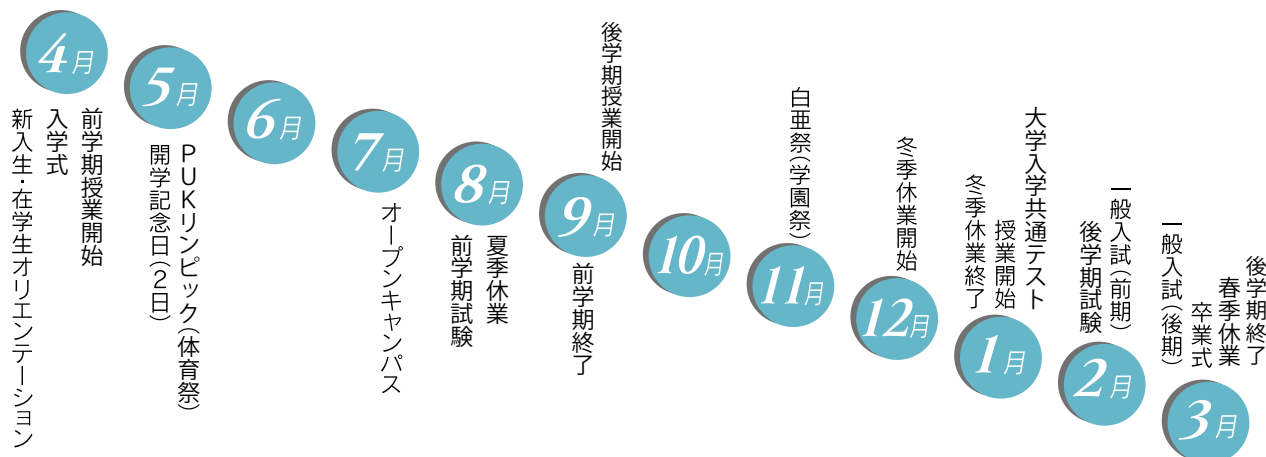
450台

728台

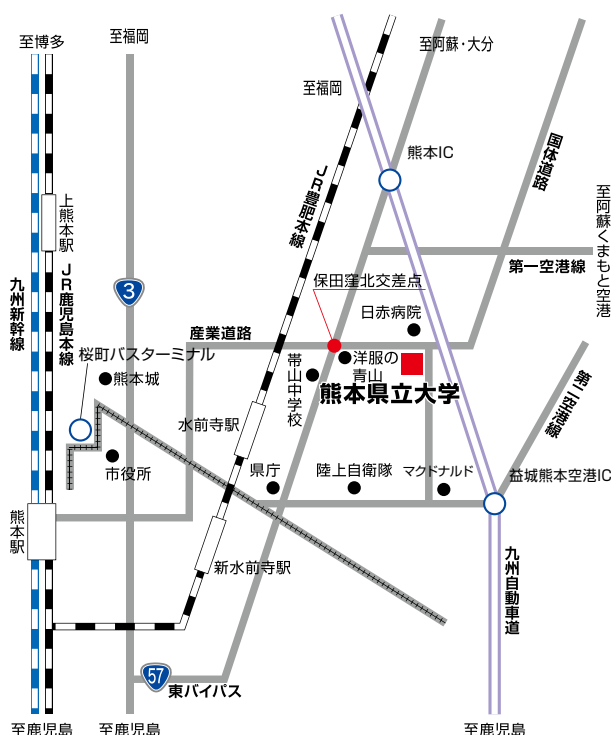
7,856m²

大学暦

熊本県立大学の1年



熊本県立大学への交通アクセス



マップ上でのアクセス

熊本ICから	約4.3km(約15分)
益城熊本空港ICから	約4km(約10分)
阿蘇くまもと空港から	約13km(約25分)
JR熊本駅から	約8.2km(約25分)
JR水前寺駅から	約4.2km(約15分)

バスによるアクセス

■桜町バスターミナルから
15番のりば
・都市バス「免許センター」行(「G1-5」表示) 「日赤病院前」バス停下車(約30分)。そこから徒歩1分
・都市バス「長嶺小学校」行(「G1-4」表示) 「日赤病院前」バス停下車(約30分)。そこから徒歩1分
26番のりば
・都市バス「日赤病院・長嶺団地」行(「H3-1」, 「H1-1」, 「H2-1」表示) 「県立大通り」又は「県立大学前」バス停下車(約40分)。そこから徒歩1分
■熊本駅方面から
・バスにより桜町バスターミナル下車(約10分) ・市電により辛島町電停下車(約10分)。その後桜町バスターミナルまで徒歩約2分
■JR新水前寺駅方面「水前寺駅通り」バス停(スーパーマーケット前)から
都市バス「日赤病院・長嶺団地」行乗車(「H2-1」, 「H3-1」表示) 「県立大通り」バス停又は「県立大学前」バス停にて下車(約20分)。そこから徒歩1分
■JR水前寺駅方面南口「水前寺駅前」バス停から
都市バス「日赤病院・長嶺団地」行乗車(「H2-1」表示) 「県立大通り」バス停又は「県立大学前」バス停にて下車(約20分)。そこから徒歩1分
■JR水前寺駅方面北口「熊高正門前」バス停から
都市バス「日赤病院・長嶺団地」行乗車(「H1-1」, 「H4-1」表示) 「県立大通り」バス停又は「県立大学前」バス停にて下車(約20分)。そこから徒歩1分

熊本県立大学

■熊本県立大学シンボルマーク



このシンボルマークは、「時代と地域の要請に応える大学」をイメージ。「黒」は、地域と大学の伝統、「赤」は、世界に向かって力強く伸びていく先進性と若々しい躍動感を表しています。

■大学基準適合認定マーク



本学は、平成28年度に公益財団法人大学基準協会の認証評価を受け、同協会の大学基準に適合しているとの認定を受けました。

熊本県立大学

〒862-8502 熊本市東区月出3丁目1番100号
TEL 096-383-2929(代) FAX 096-384-6765